通商公報

外務省通商局 編纂

『通商彙纂』継続誌

『通商公報』（『通商彙纂』の改題誌）は、アジア・欧米諸国・中南米のほか、中近東・アフリカ地域までを含む全世界の領事館報告を満載。大正期日本資本主義の発展・膨張期を、対外関係を通じて把握するための第一級資料。

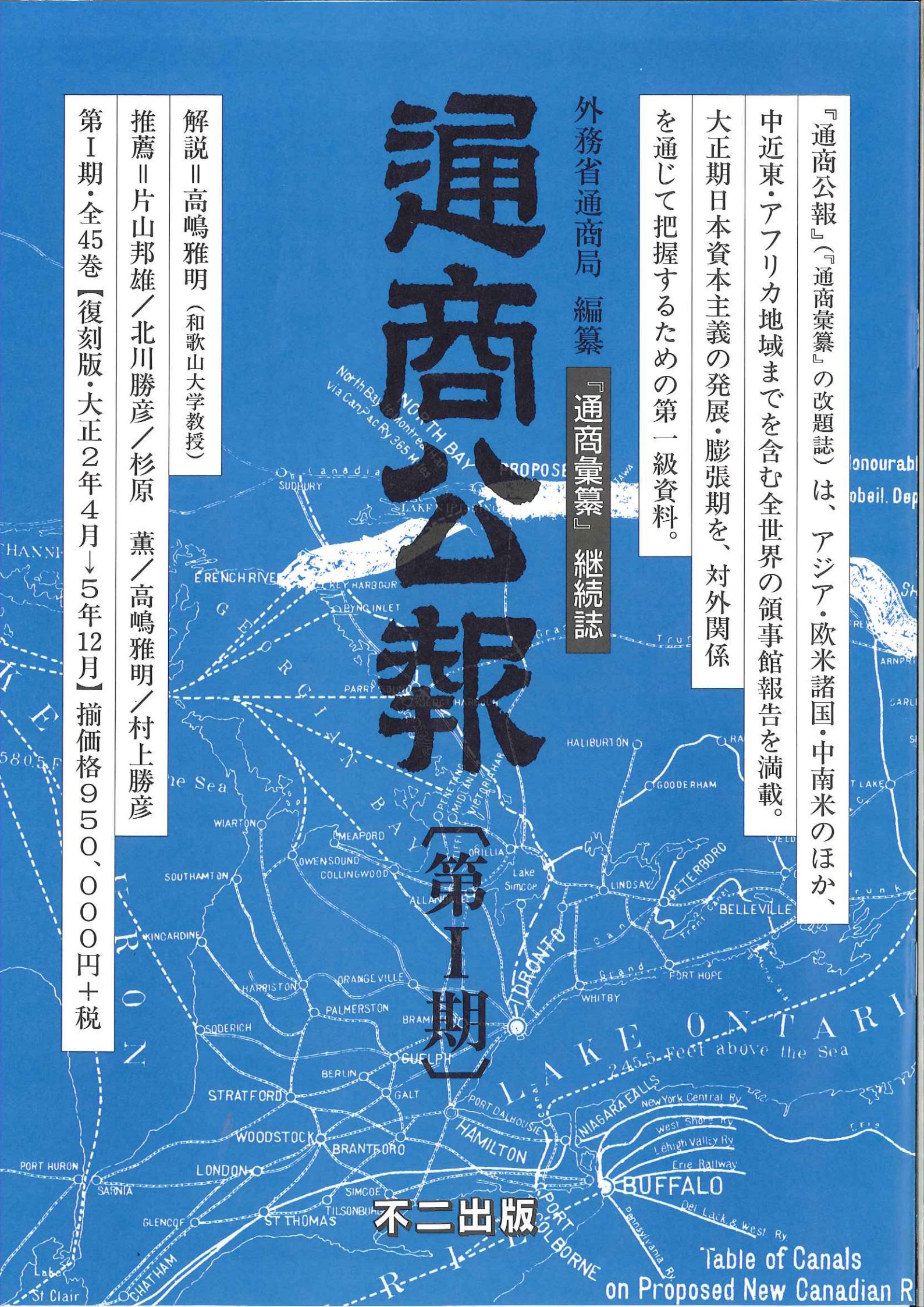
解説＝高嶋雅明（和歌山大学教授）

推薦＝片山邦雄／北川勝彦／杉原　薫／高嶋雅明／村上勝彦

第Ⅰ期・全45巻【復刻版・大正2年4月→5年12月】揃価格950、000円＋税

〔第Ⅰ期〕

不二出版



『通商公報』推薦の辞

〈五十音順〉

日本外航海運史の研究にも貴重な資料を提供

片山邦雄（大阪学院大学国際学部教授）

日本外務省は世界各地に駐在する日本領事の報告のうち、通商に関する部分を編纂して、定期刊行物とした。内容は、経済事情、貿易、金融、運輸、その他にわたり、実に豊富である。形式的には、調査報告、諸統計、巡回復命書など様々である。

領事は職務上海運と関わりが深く、港湾都市に駐在している場合が多い。私自身は、日本外航海運を研究してきたので、当然これらの領事報告から学ぶことが大であった。年を追って、領事報告を読んでいくうちに、世界経済の発展の中で国際輸送ネットワークが、次第に緻密化され、合理化されていったこと、またその中における競争の態様も知ることができたのである。

私の感じるところでは、領事報告は単に客観的事実を冷徹に報道、分析しているだけではない。報告者の態度、熱気、意見、提言を見ることもできる。つまり、当時の日本人の国際経済へのまなざしのありようも知ることができるのである。

近代日本経済を国際的視野のうちに研究していくことは、今日一段と重要性を増している。多くの研究者にとって、領事報告を参照することにより大きな収穫が得られるものと確信している。それだけではなく、領事報告を見ることによって、研究のテーマをつかむことも可能である。

このたび不二出版によって復刻される『通商公報』は、大正期のものである。この間に起こる第一次世界大戦期には、日本経済の怒濤のような海外進出が行われる。まさに近代日本経済の「夏」である。日本経済にとっての国際関係は、極めて複雑、多様なものとなっていく。この中で『通商公報』をいかに読み解いていくかが、我々の課題であると思う。

『通商公報』推薦の辞

〈五十音順〉

日本経済史研究に国際的視野を導入するための一級資料

北川勝彦（関西大学経済学部教授）

ポスト冷戦期から二一世紀にむかって日本の国際関係には新基準が求められている。「未来に関する省察は過去に関する省察に倣うのを常道とする」という言葉には、叡智の真髄を感じさせるものがあるが、今日ほど諸外国との関係についての理論的および歴史的研究を必要としている時代もないであろう。

『通商公報』は、ポスト第一次世界大戦期を含めて一二年間にわたって外務省通商局から発行されてきた。『通商公報』が刊行された時代の日本外交は、欧米諸国への不信感と西洋列強が日本を猜疑心で見ているとする二重の被害者意識にたった「アジア主義的思想」と西洋諸国との理解と提携の下に、中国その他の地域での日本の権益をまもるという「東西協調的思想」の間の危うい均衡のなかで展開されようとしていた。一方、第一次世界大戦後発展してきた綿織物業や雑貨品工業の新たな輸出市場として近東、バルカン諸国それに中南米やアフリカが注目されるようになっていたのである。『通商公報』の時代には、当時は未知の市場であったアフリカ地域に関する領事報告でさえ、七五六件に達している。これらの通商情報は、ポートサイド、アレキサンドリア、ケープタウン駐在の領事からよせられたものであった。『通商公報』に掲載された通商情報は、当時の人々にとっても、現在のわれわれにとっても日本の国際経済関係を認識するうえで貴重な資料である。

『通商公報』の研究を通して、国際経済関係史の立場から多様な地域の経済史研究において独自の視角と枠組をそれぞれの地域の経済史研究者に対して提起できる。また、『通商公報』の広範な利用は、国際的契機のなかで日本経済史の展開を考察する道を拓き日本経済史研究に厚みを加えることができるであろう。産業国家としての日本の興隆や世界各地と日本の特有の関係などが、相互の人々の生活に与えてきた影響を描き出す一級の資料として、『通商公報』が広く内外の研究者に利用されることが期待される。

『通商公報』内容見本

通商公報第一巻（自第一號至第二十六號／自大正元年四月至同六月）索引

縮小しています。

甲、館別

○在支那帝國公使館

掲載欄　標題　頁　號數
時事　支那伊太利間直接取引の仲介商會設立……三二　二八—二八

○在間島帝國總領事館

商業　間島郡四季賀島狀況（自大正元年十月至同年十二月）……一四　五五—一四
同　間島大正元年賀島年報……一四　六六—一四
同　間島大正二年第一季賀島狀況……一四　八七—一四
同　間島大正二年第二季賀島狀況……一四　九六—一四
畜産業　間島の牛疫に就て（龍井村）……一六　八七—一六
同　間島の牛疫に就て（龍井村）……一六　九六—一六

○在局子街帝國總領事館分館

畜産業　間島の牛疫に就て（局子街）……一六　八七—一六
同　間島の牛疫に就て（頭道溝）……一六　九六—一六

○在頭道溝帝國總領事館分館

農業　雑穀擔保の終了……三一　一三一—三一
畜産業　間島の牛疫に就て（頭道溝）……三一　九六—三一
交通　海關河全部解氷……三一　一四五—三一
同　在琿春帝國總領事館分館
紹介　琿春取扱商……六　三一—三一

○在安東帝國領事館

掲載欄　標題　頁　號數
商業　安東大正元年貿易概況……一〇　六四—一〇
同　安東金融及貿易管流通狀況……三一　一〇四—一〇六
財政　安東金融及貿易管流通狀況……三一　一〇四—一〇六

○在奉天帝國總領事館

商業　奉天地方人參馬歩狀況……一七　一三一—一七
同　奉天地方貿易概況……一七　一四一—一七
同　通譯輸入力等の需要……一九　一四二—一九
同　本邦製品ニ對シテ競爭セル鉄鉄製品の需要狀況（奉天地方）……一九　一四二—一九
同　李天に於ける米如何狀況（大正元年）……一九　一四三—一九
同　冥帽子需要狀況……一九　一四三—一九
同　印刷機械類の需要……一九　一四三—一九
同　錦州に於ける水産狀況……一九　一四三—一九
農業　南滿洲に於ける水稲狀況……一九　一四三—一九
交通　錦州を中心とせる交通路……一九　一四三—一九
事情　旭順附近產業交通狀態……一九　一四三—一九
同　錦州經濟事情（上）……一九　一四三—一九
同　同　上（下）……一九　一四三—一九
紹介　本邦製鐵類取扱商……一一　一四三—一一
同　雑穀物取扱商……一一　一四三—一一
同　雑貨及時計商店……一一　一四三—一一
同　帽子取扱商……一一　一四三—一一

○在吉林帝國領事館

商業　吉林省穀物產出高（四十年）……九　一四四—一四三
同　吉林陶器磁器附帯汽船狀況……一四　一四六—一四六
交通　吉林陶器磁器附帯汽船狀況……一四　一四六—一四六

○在哈爾賓帝國總領事館

商業　哈爾賓に於ける輸入貿易（千九百十二年）……八　一三六—一三四
同　松花江筏運による輸入概況（千九百十二年）……一〇　一四六—一四〇
同　レモン需要狀況……一〇　一四六—一四〇
交通　東清鐵道汽車發着時刻改定……一三　一四四—一四三
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（一月中）……一六　一四七—一四六
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（三月中）……一六　一四七—一四六
紹介　セルロイド製品取扱商……一七　一四七—一四七

○在長春帝國領事館

農業　滿洲大豆の移作に就て……三　一〇六—一〇六
紹介　本邦製鐵類取扱商……三　一〇七—一一
同　セルロイド製品取扱商……三　一四一—一四一
同　時計取扱商……一二　一四一—一四一

○在遼陽帝國領事館

商業　遼陽醫藥來南況……一二　一三六—一三六
同　遼陽に於ける貿易製品……一八　一四一—一四一
同　印刷機械の需要……一八　一四一—一四一
工業　本邦人の滿洲進出……一〇　一四六—一四六
鑛業　遼陽營口の炭鑛……一四　一四六—一四六
紹介　日本製品取扱商……一四　一四六—一四六

○在鐵嶺帝國領事館

商業　馬鈴薯近狀……一八　一四一—一四一
同　鐵嶺に於ける黄麻製品狀況……一〇　一四六—一四六

○在新民府帝國總領事館分館

掲載欄　標題　頁　號數
商業　新民府穀類市場に於ける貿易相場（一月中）……三　一二四—一二六
同　新民府砂糖商況……三　一三一—一三〇
同　新民府塩に於ける貿易相場（三月中）……七　一三三—一三六
同　上　（四月中）……七　一四四—一四六
同　新民府塩の商況（大正元年）……一二　一四四—一四〇
同　滿洲の酒類輸出入狀況……一四　一四六—一四〇
同　海產物需要狀況（綿洲）……一四　一四六—一四〇
同　新民府塩に於ける貿易相場（五月中）……一四　一四六—一四〇
關稅　奉天省間原稅稅收入狀況……一二　一二六—一二六
事情　奉天省大民屯事情……一二　一二六—一二六
同　奉天省法庫縣事情……一六　一三〇—一三〇
同　奉天省彰武縣事情……一九　一四一—一四一
同　奉天省昌圖縣事情……一一　一四六—一四六
同　奉天省鄭家屯事情……一一　一四六—一四六
同　奉天省鄭家屯附近事情……一二　一四六—一四六
同　奉天省昌圖縣事情……一一　一四六—一四六

○在遼陽帝國領事館

商業　遼陽醫藥來南況……一二　一三六—一三六
同　遼陽に於ける貿易製品……一八　一四一—一四一
同　印刷機械類の需要……一八　一四一—一四一
工業　本邦人の滿洲進出……一〇　一四六—一四六
鑛業　遼陽營口の炭鑛……一四　一四六—一四六
紹介　日本製品取扱商……一四　一四六—一四六

○在鐵嶺帝國領事館

商業　馬鈴薯近狀……一八　一四一—一四一
同　鐵嶺に於ける黄麻製品狀況……一〇　一四六—一四六

○在齊々哈爾帝國領事館

掲載欄　標題　頁　號數
商業　貿易製品需要狀況……一一　一〇四—一〇六
財政　黑龍會帖の暴落……一一　一〇四—一〇六

○在天津帝國總領事館

商業　天津米穀市況……七　一三一—一三七
同　天津に於ける牛馬皮革に牛骨……八　一三一—一三六
同　滿の商況不振……三　一〇六—一〇六
工業　西南鐵道敷設計畫……三　一〇六—一〇六
交通　滿南及中ひとせる山東、津浦兩鐵道の比較……三　一〇六—一〇六
紹介　牛馬皮革に牛骨取扱商……一八　一四一—一四一

○在芝罘帝國領事館

商業　芝罘地方產出物蠶繭狀況……一〇　一四六—一四六
同　青島及芝罘に於ける砂糖……一二　一四六—一四六
同　芝罘に於ける豆粕……一二　一四六—一四六
同　芝罘に於ける セメント……一二　一四六—一四六
同　農作物と市況との關係（山東省）……一四　一四六—一四六
工業　烟草電燈公司增資に就て……一四　一四六—一四六
農業　山東省產出物狀況……一四　一四六—一四六
紹介　山東省產の貿易業者……一四　一四六—一四六
同　絹織物取扱商……一四　一四六—一四六
同　山東省水邦貿易商……一四　一四六—一四六
同　セルロイド製品取扱商……一六　一四七—一四六
同　芝罘及青島に於ける時計商……一四　一四七—一四七

○在上海帝國總領事館

商業　上海市況……一一　一〇四—一一
財政　黑龍會帖の暴落……一一　一〇四—一一

○在蘇州帝國領事館

掲載欄　標題　頁　號數
商業　蘇州附近蠶繭狀況……一一　一〇四—一一
同　蘇州附近蠶繭及セメント商況……一一　一〇四—一一
農業　蘇州附近蠶繭狀況……一一　一〇四—一一
同　無錫附近蠶繭狀況……一一　一〇四—一一
同　蘇州附近蠶繭狀況……一一　一〇四—一一
紹介　本邦製マッチ、英大小及雑貨取扱商……一一　一〇四—一一
同　セルロイド及セメント取扱商……一一　一〇四—一一
同　蘇州に於ける棗種取扱商……一一　一〇四—一一

○在杭州帝國領事館

商業　杭州に於ける米……九　一四一—一四一
同　杭州四十四年貿易年報……一一　一〇四—一一六
同　杭州地方貿易概況……一一　一〇四—一一六
同　杭州地方蠶繭相場……一一　一〇四—一一六
農業　杭州地方蠶繭狀況……一一　一〇四—一一六
同　蠶蛾用原蠶種……一六　一四四—一四四
同　杭州地方蠶繭狀況……一一　一〇四—一一六
紹介　杭州に於ける蠶なる雑貨商……一一　一〇四—一一六
同　杭州に於ける時計商……一一　一〇四—一一六

○在滬口帝國總領事館

商業　滬口商業動向概況（上）……一一　一〇六—一一六

『通商公報』内容見本

縮小しています。

掲載欄　標題　頁　號數
商業　滬浦鐵道南北直通列車增發……一一　一〇四—一〇六
同　滬浦鐵道南北直通列車增發……一一　一〇四—一〇六
同　杭州附近汽船航路の整事……一一　一〇四—一〇六
紹介　セルロイド製品取扱商……一一　一〇四—一〇六

○在蘇州帝國領事館

商業　革命後に於ける蘇州商況……九　一四一—一四三
同　セルロイド及セメント商況……九　一四一—一四三
農業　蘇州附近蠶繭狀況……九　一四一—一四三
同　蘇州附近蠶繭收穫豫想……九　一四一—一四三
同　無錫附近蠶繭狀況……九　一四一—一四三
同　蘇州附近蠶繭狀況……九　一四一—一四三
紹介　本邦製マッチ、英大小及雑貨取扱商……一一　一〇四—一一
同　セルロイド及セメント取扱商……一一　一〇四—一一
同　蘇州に於ける棗種取扱商……一一　一〇四—一一

○在杭州帝國領事館

商業　杭州に於ける米……九　一四一—一四一
同　杭州四十四年貿易年報……一一　一〇四—一一六
同　杭州地方蠶繭相場……一一　一〇四—一一六
農業　杭州地方蠶繭狀況……一一　一〇四—一一六
同　蠶蛾用原蠶種……一六　一四四—一四四
同　杭州地方蠶繭狀況……一一　一〇四—一一六
紹介　杭州に於ける蠶なる雑貨商……一一　一〇四—一一六
同　杭州に於ける時計商……一一　一〇四—一一六

○在滬口帝國總領事館

商業　滬口商業動向概況（上）……一一　一〇六—一一六

縮小しています。

『通商公報』推薦の辞

両大戦間期の日本経済史研究の基本資料

杉原　薫（大阪大学大学院経済学研究科教授）

〈五十音順〉

明治日本の官製海外情報の最も体系的な集成である『通商彙纂』の資料的価値は、角山栄編『日本領事報告の研究』（一九八六年）や、マイクロフィルム版の出現、さらに不二出版による復刻版の刊行などによって広く知られるようになった。しかし、『日本領事報告の研究』のベースとなった研究会でも、商社や銀行の情報収集機能が十分でなかった明治中期頃までの官製情報の資料的価値には異論の余地はなかったが、産業革命が進行した後の大正期に刊行された『通商公報』の意義についてはそれほどはっきりした合意があったわけではない。

だが、近年の研究史の動向は、『通商公報』の潜在的価値を高める方向に大きく動いている。両大戦間期の日本経済史研究は、従来のように、植民地支配や侵略、戦争に帰結する東アジア内部の対抗・衝突の過程を追うだけではなく、東アジアの工業化とアジア間貿易のダイナミックな発展に体現されている協調・融合の側面にも注目し、その双方を統一的に把握する方向に向かっているからである。

第一次大戦期から一九二〇年代にかけての東アジアに生じた新しい国際経済関係の性格を理解しようとする者には、『通商公報』は、日本を中心とする通商情報を年々最も系統的に収集しているという意味において、基本資料である。またそれは、日本政府の国際経済関係認識を、他国のそれとの対比において知ることができるという点でも重要である。同時代のイギリスの領事報告を読むと、シティーを中心とするイギリスの金融・サービス利害が日本、中国の工業化の進展の中で、なんとかして自己のビジネス・チャンスをつかもうとしていたことがわかる。一九二〇年代末以降になると、中国国民党政府も、ナショナリズムの立場から通商・産業政策に関する情報を掲載した雑誌を英文で発行するようになった。『通商公報』が何に注目し、何を見逃していたかを、それらとの対比で明らかにできれば、日本の経済政策のより客観的な理解にも資するところが大きいであろう。

『通商公報』内容見本

縮小しています。

通商公報　第七七三號　大正九年十月十八日（月曜發行）

商業

輸入品

輸入品　海外及國内貿易港より租借地内に輸入せられたる主要貨物
び鐵道にて内地に輸入する主要貨物
輸出品　海外及國内貿易港（輸出せる主要貨物、滿洲より再び鐵道に由り租借地に搬出せられたる主要貨物
（大正九年十月一日附左案天帝國議領事来探正船報告）

大連貿易額『自四月至六月』

海外及國内貿易港より租借地内に輸入せられたる主なる貨物（輸入後鐵道に由り滿洲各地に轉運せられたるものを含む）

汽船に依るもの

	第一期（自四月至六月）	同九年
1　第七七三號　大連貿易額		
外國綿貨類		
英國本色市布	三六一疋	
日本同	五三、七五五	
米國本色租布、細布	一、二四六	一、四四〇疋
		四六、七四〇
		三七七
英國同		二〇〇
日本同		八二、八九九
英國漂布市		一〇、二一九
日本同		三九、三一八
英國本色租斜紋布		三〇
日本同		一〇、八三五
漂租斜紋布		二、九五三
日本同		一、八〇八
漂細斜紋布		四八〇
英國本色洋傘布		二、三八二
日本同		七五五
		一、三一二
2　第七七三號　大連貿易額		
印花布	一三一、二九七	一六、三五八
洋紅布、染色洋傘布	六一、五六三	一、〇四三
染色布		
玄素羽朝	三〇八一	
玄素泰西緞	七六九九	一、二九九九
玄素羽綾	二六九二	六四三
玄素羽朝	一〇、九一二	六〇
色素泰西緞	一、四二九	土
色素羽綾	六、九五二	五五七
色素羅緞	四、四九二	四〇六
色素羽綾	四、四九二	一一〇
粗斜紋布	三〇、八〇〇	一、三八〇
細斜紋布	一七、八三〇	二、三五八
機花羽朝	五二八	九九九四
機花泰西緞	三八〇	三六七
機花羽綾	四、六三三	一、八二二
機花羽緞	四七	一一〇
素市布、粗布、細布	一、一二一	二、八一〇
本色素八號布、絵花緞	一、五八一	一、五八一
漂白染色、印花、素絵布、絵法緞	一四七三九	二〇〇七
捻紗織、絵布、絵法絵	三六	三五
仿製土布		
日本同（本色、復機）	三〇九、九八六	
日本同（本色、同）	二四五三七	
日本綿布	六、一三七、二一二碼	
	一三六四〇三四碼	
毯	三六、四八三條	
面巾、浴巾、床巾	四〇、九八六打	
	三一、七八一打	
綿紗		
印度本色	八、六一八撚	一
日本本色		七、四九一 撚
絹織物		
印花布	一四、一八一疋	二八二
洋紅布、染色洋傘布	六〇八	三七三
中國綿貨類	三二四四五	
粗斜紋布	五一一	
柳條布	一、三五九撚	
土布	五五七七條	
毯	三四八九〇條	
綿紗	七五五五撚	
雜貨疋貨類		
帆布、細帆布	一四九九、六一〇褥	
朝	二五一一六斤	
絲金雜貨繊緞	五六六四斤	
外國五金及鑛石類	五七五四	
沼片等（アルミニウム）	六三撚	
沼製料	一〇	
錫（アンチモニー）	五	
黄銅		
條、片、板	二一三	
他類黄銅	三三九	
紫銅條竿	四六一	
紫銅絞繩	四、九五六	
紫銅片、板	二八一八	
紫銅絲	一六五	
他類紫銅	二四一	
筆鉛	九三	
鐵	二一〇	
三角鐵、工字鐵、丁字鐵鉄、木流鐵	八八	
	八三八一七	
銅線製料	七五一	三〇五
鉛	—	—
水銀	—	—
錫	二	二
	六	六
外國雜貨類		
石綿	二八六撚	
新蘇藤袋	三七七、九五五箇	
舊蘇藤袋	二一四、八五五	
大車、鋼車	一、三六撚	
水泥	一七五、四三五	
米穀	三一、七六六	
鹽鹸鉀	二五五	
絲綿煙草	三四六	
紙卷煙草	三三七、八七二千枝	
硝子	三三一、五七一噸	
煤（石炭）	五四	
焦炭、無煙（ハークス）	三五四、六四三箇	
電氣材料及裝置品	四、九五四撚	
乾魚、鹹魚	九四〇	
鰯魚類	三、〇二一	
鮮魚	八四三	
魚粉	三、〇二一	
葉	九三〇九	
硫片	七、四五〇箱	
石盖（石膏）	六八三一撚	
自來火（燐寸）	—	
樂材	七、四五〇箱	
美國煤油	一〇五、一三六個歩	
日本同	四九三、五〇ガロン	
滑物油	七〇〇	
	二五七、五〇五ガロン	
鐵路材料		
鋼線製料	七五一	三〇五
鉛	—	—
水銀	—	—
錫	二	二
	六	六
外國雜貨類		
石綿	二八六撚	
新蘇藤袋	三七七、九五五箇	
舊蘇藤袋	二一四、八五五	
大車、鋼車	一、三六撚	
水泥	一七五、四三五	
米穀	三一、七六六	
鹽鹸鉀	二五五	
絲綿煙草	三四六	
紙卷煙草	三三七、八七二千枝	
硝子	三三一、五七一噸	
煤（石炭）	五四	
焦炭、無煙（ハークス）	三五四、六四三箇	
電氣材料及裝置品	四、九五四撚	
乾魚、鹹魚	九四〇	
鰯魚類	三、〇二一	
鮮魚	八四三	
魚粉	三、〇二一	
葉	九三〇九	
硫片	七、四五〇箱	
石盖（石膏）	六八三一撚	
自來火（燐寸）	—	
樂材	七、四五〇箱	
美國煤油	一〇五、一三六個歩	
日本同	四九三、五〇ガロン	
滑物油	七〇〇	
	二五七、五〇五ガロン	
鐵路材料		

『通商公報』推薦の辞

世界各地の通商・経済状況を逐次報告する唯一の資料！

高嶋雅明（和歌山大学経済学部教授）

〈五十音順〉

『通商公報』はわが国の在外公館を発信拠点とする海外通商情報や各国（地域）の経済活動記録である「領事報告」を収録した逐次刊行物で、大正二年四月から同一三年末まで、外務省通商局の編集でほぼ週二回のペースで刊行された。さて、在外公館（領事館）網の拡充と領事報告制度の整備は明治期から進み、『通商彙纂』の発刊は海外通商情報の受け手の関心を一段と高めた。

大正期に刊行された『通商公報』は基本的には『通商彙纂』の特徴を引き継ぎながらも、さらに充実した内容となった。例えば、情報手段の発展ともかかわるが、「電報」などの利用によって迅速に情報を報告しようとしたことで、雑誌の初めに数ページにわたって電報欄が続くこともあった。第一次世界大戦勃発から一週間後に上海総領事は「欧州戦乱の影響―上海　第一報―」を寄せ、この領事報告は八月二〇日発行の『通商公報』に掲載された。また、従来と同じく欧米・中国地域からの情報が多かったが、新しい展開として、中近東・アフリカさらには中南米地域からの情報も継続的にもたらされるに至った。さらに、商品毎の情報や各国（地域）の経済状況・通商制度の解説に加えて、商品取扱い業者などの取引紹介が随分と増加したことである。

第一次世界大戦は日本の貿易を飛躍的に拡大させ、それを基盤に企業や地方自治体（大阪市等）が独自の情報網と報知体制を築くようになった。『通商公報』がもたらす情報の質や量、あるいは『通商公報』を媒介とする情報の報知体制が国内の関係者にどのように受けとめられ、活用されたかについての解明は今後の課題であり、そのための材料がいま提供されようとしている。また、大正期に限っても、世界各地の多種多様な通商・経済状況の情報を盛り込んだ逐次刊行物は他になく、『通商公報』は当時の日本が世界のどのような地域と分野に関心を持って係わろうとしていたかを知るうえでの資料の宝庫であるし、比較的乏しいとされている大正期日本経済を知る貴重な資料であると考える。

『通商公報』内容見本

縮小しています。

機絲元釘	一〇、五一六	一六、一九七	
生鐵	二六、三六六	一五、七七六	
管子	五三、五四二	二〇、五二三	
軌	九八、五三七	五、八九三	
片、板	二二、三一五	二九、四二七	
他類鐵	一九、六三七	一九、〇三四	
鍍錫鐵			
片	九、六二四	九、五九六	
絲	二、一二五	一、二二四	
他類鍍錫鐵	一、一一八	五八	
鋼鐵製料	四、九五五	二、二八六	
鉛塊、條	四、〇六	四、〇六	
鉛製料	五、一五五	一、八八一	
錫類鋼	三一九	一六二	
錫製塊	二	一	
錫製料	四	一	
錫（ラッケル）			
銀（ラッケル）			
水銀	一	一	
三角鋼、竹節鋼、鋼條			
鋼片、板	二一二	七三四	
他鋼	四〇八	一、一一九	
他類鋼	二、七九〇	八〇六	
鋼製塊	四五五	六八三	
鐵製塊	一	一	
鐵製料	二、九八二	一、七〇三	
馬口鐵	一、五五七	一一三	
他	二六一	一二二	
鉄製料			
中國五金及礦石類			
黄銅製料、紫銅製料	六六	二七九	
紫銅	—	—	
生鐵	—	—	
機絲元釘	一〇、五一六	一六、一九七	
生鐵	二六、三六六	一五、七七六	
管子	五三、五四二	二〇、五二三	
軌	九八、五三七	五、八九三	
片、板	二二、三一五	二九、四二七	
他類鐵	一九、六三七	一九、〇三四	
鍍錫鐵			
片	九、六二四	九、五九六	
絲	二、一二五	一、二二四	
他類鍍錫鐵	一、一一八	五八	
鋼鐵製料	四、九五五	二、二八六	
鉛塊、條	四、〇六	四、〇六	
鉛製料	五、一五五	一、八八一	
錫類鋼	三一九	一六二	
錫製塊	二	一	
錫製料	四	一	
錫（ラッケル）			
銀（ラッケル）			
水銀	一	一	
三角鋼、竹節鋼、鋼條			
鋼片、板	二一二	七三四	
他鋼	四〇八	一、一一九	
他類鋼	二、七九〇	八〇六	
鋼製塊	四五五	六八三	
鐵製塊	一	一	
鐵製料	二、九八二	一、七〇三	
馬口鐵	一、五五七	一一三	
他	二六一	一二二	
鉄製料			
中國五金及礦石類			
黄銅製料、紫銅製料	六六	二七九	
紫銅	—	—	
生鐵	—	—	

4　第七七三號　大連貿易額			
枕木	一六三、二五〇塊	一四二、四七一塊	
他類（鐵道用、車輌材料、木車ヲ含ム）	一、三八七、九〇二個歩平	二七八、三四九個歩平	
磚	六撚	五六、七三〇個歩平	
即色及材料（石灰及材料）	七五六七九	七、九〇九撚	
硝（曹達）	一二、三三五撚	一、三一五	
石鹸（雲石、花石等）	二、六三一	一八七七個歩平	
赤鉛	三、二六〇個歩平	二、八二九撚	
硫黄	六五三	二	
酒類	二、九〇四、六五五平方尺	二四四四、四七四平方尺	
櫃木材	七九、一五三撚	一、二三、九〇六打	
他類	三、四三〇撚	一、四〇四撚	
中國雑貨類			
明蠟	六〇	二四五	
牛皮（乾、石）	一九四	二二九四	
信石	三三撚	五三撚	
石綿	三三	六二	
書籍	四四	四三七	
繊維	一七	一七	
畑	—	—	
五穀			
麥	三一三六	三五〇	
大豆	七八五九	一一一	
小麦高粱	二四五、七三七	八四、五二八	
米	五五二	—	
小麦	四、〇〇一	一、八〇六	
粟粮類草	五三五	五、三五五	
煤卷煙草	四、〇〇一	四四、八一一噸	
焦炭、焦煤	一、〇七〇	一、三六四	
棉花	七八六撚	一三九撚	
舊蘇（蘇州）	三、〇〇〇箇	一、〇七、九三五箇	
乾魚、鹹魚	一、三〇三撚	一、六八八撚	
粉	七八、九四三	五六、六四七	
蒸餅	一、八一八	五、〇四六	
石盖	六、一五四	—	
生牛皮	九八	二八四	
熟牛皮	九六	九、〇一一個歩平	
樂材	一、六九四個歩平	二、〇四三撚	
油	一〇、六六三撚	一〇〇	
花生油	—	一、三六四	
上等紙	六〇三	一、三五一	
火等紙	一、三六四	一、〇〇四	
下等紙	四六一	一、一二四	
鞄類	四四、六二九双	四三、一二〇双	
靴類	—	—	
野蠶繭絲	—	一八〇撚	
蠶繭	二一〇撚	一三	
洋式綿線帽	七〇	一、六八三四打	
帽	一、七二三打	一〇撚	
石材（雲石、花石等）	二一六撚	二一〇個歩平	
牛油	二七七撚	二七七撚	
茶	八、一五一	三〇二	
苾葉（紫蘇草）	九、九〇八	一、一一七六	
苾蘇（紫蘇油）	一、〇二九	九二五	
民船に依るもの			
豆餅	三八、五一二五	五五八	
棉花	七八六撚	一三九撚	
舊蘇（蘇州）	三、〇〇〇箇	一、〇七、九三五箇	
乾魚、鹹魚	一、三〇三撚	一、六八八撚	
粉	七八、九四三	五六、六四七	
蒸餅	一、八一八	五、〇四六	
石盖	六、一五四	—	
生牛皮	九八	二八四	
熟牛皮	九六	九、〇一一個歩平	
樂材	一、六九四個歩平	二、〇四三撚	
油	一〇、六六三撚	一〇〇	
花生油	—	一、三六四	
上等紙	六〇三	一、三五一	
火等紙	一、三六四	一、〇〇四	
下等紙	四六一	一、一二四	
鞄類	四四、六二九双	四三、一二〇双	
靴類	—	—	
野蠶繭絲	—	一八〇撚	
蠶繭	二一〇撚	一三	
洋式綿線帽	七〇	一、六八三四打	
帽	一、七二三打	一〇撚	
石材（雲石、花石等）	二一六撚	二一〇個歩平	
牛油	二七七撚	二七七撚	
茶	八、一五一	三〇二	
苾葉（紫蘇草）	九、九〇八	一、一一七六	
苾蘇（紫蘇油）	一、〇二九	九二五	
豆餅	三八、五一二五	五五八	

『通商公報』推薦の辞

〈五十音順〉

転換期日本の世界的地位を照射

村上勝彦（東京経済大学教授）

大正時代は近代日本における転換期をなす。明治後期に産業革命を遂行し、同時に台湾・朝鮮・関東州など植民地領有の帝国と化した日本を待ちかまえていたものは何か？　大正期の日本経済をとりまく世界的環境はいかなるものであったか？　こうした設問を解く重要な鍵は当時の領事報告の中にある。明治期の『通商彙纂』の続編が大正期の『通商公報』である。『通商公報』には当時の貴重な海外通商情報が満載されているにも関わらず、従来必ずしも十分利用されてこなかった。その原因は、朝鮮や大連など植民地編入の地域が領事報告の対象から外され、その関係の研究者に利用されなくなったこともあるが、それ以上に『通商公報』の有する資料的価値がこれまで必ずしも十分に理解されてこなかったことにある。このことは、毎週二回発行され、一回が百頁余に達するという大部のこの領事報告を閲覧に供する機関が限られており、利用が容易でなかったことにも因っている。

この難点を解決するこのたびの復刻版『通商公報』の出版は、日本近代経済史研究を志す者にとってたいへん喜ばしい。産業革命を経た日本資本主義は、世界市場のあり方に絶えず規定されることになった。当時の世界市場のあり方とその中での日本の対応・地位を最も克明・詳細に伝えるものが『通商公報』である。地域的には隣国中国の情報を最多とし、その他アジア諸地域、米国、欧州、ロシアなど世界各地に及び、分野的には各商品別の通商情報を中心としつつも、産業・財政金融・関税・交通・移民など広範であり、日本経済の世界的展開を跡づけている。第一次大戦好況は日本経済の規模を一挙に数倍に膨張させたが、それを支えた貿易状況は？　同時に生起した中国民族産業の勃興に伴う日中経済対抗のあり方は？　大戦後恐慌の通商面における実態は？　これら転換期日本経済の世界的地位を解きあかすに不可欠な第一級資料が『通商公報』である。

『通商公報』内容見本

縮小しています。

○各國駐在帝國名譽領事

佛領印度	西貢	E. Rafleg	
英領錫蘭	コロンボ	Walter Shalegent	同
濠洲	ア・ルーム	Archei Male	同
同	アデレード	Herbert Angress Parsons	同
新西蘭	ウェリングトン	Thomas Young	同
英領南阿	ケープタウン	Julius Jeppe.	同
弗利加		John Walter Philips	同
北米合衆國	ニュー・オリヤンス	J. E. Smith	同
同	聖路易	E. L. Bennett	同
同	デンヴアー	William Peter Hutchison	同
同	モビール	J. H. Longholin	同
同	ガルヴエストン	J. Franklin Mcallister	同
同	フイラデルフイヤ	Erwin H. Walcott	同
同	ボストン	Fred Rice	同
墨西哥國	マンサニヨ	Herbert Shepherd	同
亞爾然丁共和國	ブエノス・アイレス	P. E. J. Hemelryk	同
英吉利國	リヴアプール	W. T. D. Scott Smith	同
同	マンチエスター	Wagmann Dixon	同
同	ミッドルスブラー	A. Scott Younger	同
同	グラスゴー	Edmond G. Faure	同
佛蘭西國	ボルドー	William Ramsay Longstaff	同
同	ル・ハーブル	Bronislaus Godfeder	同
露西亞國	アルソー		同
白耳義國	ブリユクセル	Alexandre alot	同
和蘭國	ロツテルダム	Hermanus De Jongh	同
同	アムステルダム	H. L. Hekker.	同
丁抹國	コーペンハーゲン	J. Hemingsen	同
羅馬國	ブレーメン	Max Roesler	同
同	伯林	Gustav Jacoby	同
同	ライプチツヒ	Alexander Georg Mende	同
同	フランクフールト	Hermann Von Passavant	同
同	アムステルダム	Edward Schlesel	同
同	ミュンヘン	Albert Schimmer	同
同	フライブルヒ	Felix Fischer	同
墺地利匈牙利國	維也納	Edmond Von Polony	名譽領事
同	ブダペスト	Hermann Medoy	名譽領事
瑞西國	チユーリク	Chevalier Edmond Gianti	同
伊太利國	ジエノア	Marquis de Campodatero,	名譽領事
同	ナーブル	Charles Emile Coppmann	名譽領事
同	パレルモ	Chevalier Michele Pollini	同
同	ヴエニス	Commandeur Grillinum	同
同	ミラン	Charbet	同
瑞典國	ストツクホルム	Georg Ioelini	同
諸威國	クリスチヤニヤ	Sven Gunnar Lindberg	同
		onuus Catinuco ajiang	名譽領事

○在外帝國公館所在地

○在英帝國大使館
10, Grosvenor Square, London W., England.
同事務所
No. 1, Lygon Place, Ebury, Street, London S.W., England.
○在米帝國大使館
No. 1331, K. Street, N. W., Washington, D. C., U. S. A.
○在佛帝國大使館
7, Avenue Iroche, Paris, France.
○在獨帝國大使館
Königsplatz 4, Berlin Deutschland.
○在伊帝國大使館
40, Piazza del Gesù, Rome, Italie.
○在墺帝國大使館
III, Schlanergasse 11, Vienne, Autriche.
○在露帝國大使館
4, Quai Fivrpoiis, St. Petersbourg, Russie.
○在清帝國公使館
清國直隸省北京江米（ハ米巷）廠街
○在和蘭帝國公使館
26, Ryn Street, La Haye, Pays-Bas.
○在墨帝國公使館
Avenida Durango Nim, 1407,
Semina de Darque, México, D. F., México.
○在暹羅帝國公使館
Surawongse Road, Bangkok, Siam.
○在伯利西帝帝國公使館
Prop. Liberdade, No. 5, Petropolis, Rio de Janeiro, Brésil.
○在白耳義帝國公使館
172, Rue de la Loi, Bruxelles, Belgique.
○在西班牙帝國公使館
Alcala, 103 Madrid, España.
○在端典帝國公使館
No. 5, Linnegatan, Stockholm, Suède.
○在智利帝國公使館
No. 398, Avenida de la Bepublion, Santiago, Chile.

○在間島帝國領事館
清國吉林省延吉府龍井村
○在局子街間島帝國總領事館分館
清國吉林省延吉府局子街
○在頭道溝間島帝國總領事分館
清國吉林省延吉府頭道溝
○在琿春間島帝國總領事館分館
清國吉林省琿春縣琿春
○在安東帝國領事館
清國盛京省鳳凰縣安東大通山東西街
○在奉天帝國總領事館
清國盛京省奉天府奉天西關
○在新民府奉天帝國總領事館分館
清國盛京省新民府
○在遼陽帝國領事館
清國盛京省奉天府遼陽縣內南街門街
○在鐵嶺帝國領事館
清國盛京省奉天府鐵嶺縣內捐局胡同
○在牛莊帝國領事館
清國盛京省錦州府營口
○在長春帝國領事館
清國吉林省長春府寬城子三道街
○在吉林帝國領事館
清國吉林省吉林喪大四中門
○在哈爾賓帝國總領事館
清國吉林省雙城堡新哈爾賓阿什河街第八十一號
○在齊齊哈爾帝國領事館
清國黑龍江省齊齊哈爾財神廟南方街北
○在天津帝國總領事館

通商公報〔第Ⅰ期〕全45巻

＋解説・総索引全4巻

⊙復刻版概要——

■収録原本の内容

『通商公報』（外務省発行）

第Ⅰ期（大正2年4月→大正5年12月）

『通商彙纂』の継続後誌『通商公報』は、大正2年4月から大正13年12月、1、2228号（通巻号数）まで刊行された。弊社では、これを3期にわけ、全30回配本にて復刻刊行。

■B5判／上製／中性紙使用

総頁数213、600頁

■解説＝高嶋雅明

第1回配本「『通商公報』解説・総索引」全4巻（これのみ分売可＝95、000円＋税）に収録。

■配本＝全10回配本

（'97年8月～'99年11月）

■価格＝各配本95、000円＋税

■揃価格＝950、000円＋税

⊙配本一覧

	配本回数	収録巻数	収録年月	配本年月	価格
'97年度	第1回	『通商公報』解説・総索引（全4巻）		'97年8月	各配本ごと95,000円＋税
	第2回	第1～5巻	大正2年4月～2年8月	'97年11月	
	第3回	第6～10巻	大正2年9月～3年1月	'98年2月	
'98年度	第4回	第11～15巻	大正3年2月～3年6月	'98年5月	
	第5回	第16～20巻	大正3年7月～3年11月	'98年8月	
	第6回	第21～25巻	大正3年12月～4年4月	'98年11月	
	第7回	第26～30巻	大正4年5月～4年9月	'99年2月	
'99年度	第8回	第31～35巻	大正4年10月～5年2月	'99年5月	
	第9回	第36～40巻	大正5年3月～5年7月	'99年8月	
	第10回	第41～45巻	大正5年8月～5年12月	'99年11月	

続刊予定

（第Ⅱ期・全50巻）大正6年1月→大正10年2月——第11→20回配本

（第Ⅲ期・全50巻）大正10年3月→大正13年12月——第21→30回配本

不二出版

〒113 東京都文京区向丘一―二―一二

TEL ○三―三八一二―四四三三

FAX ○三―三八一二―四四六四

振替 ○○一六○―二―九四○八四

本カタログ中の表示価格は、全て本体価格です。

※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

通商公報

第II期

外務省通商局 編纂

『通商彙纂』継続誌

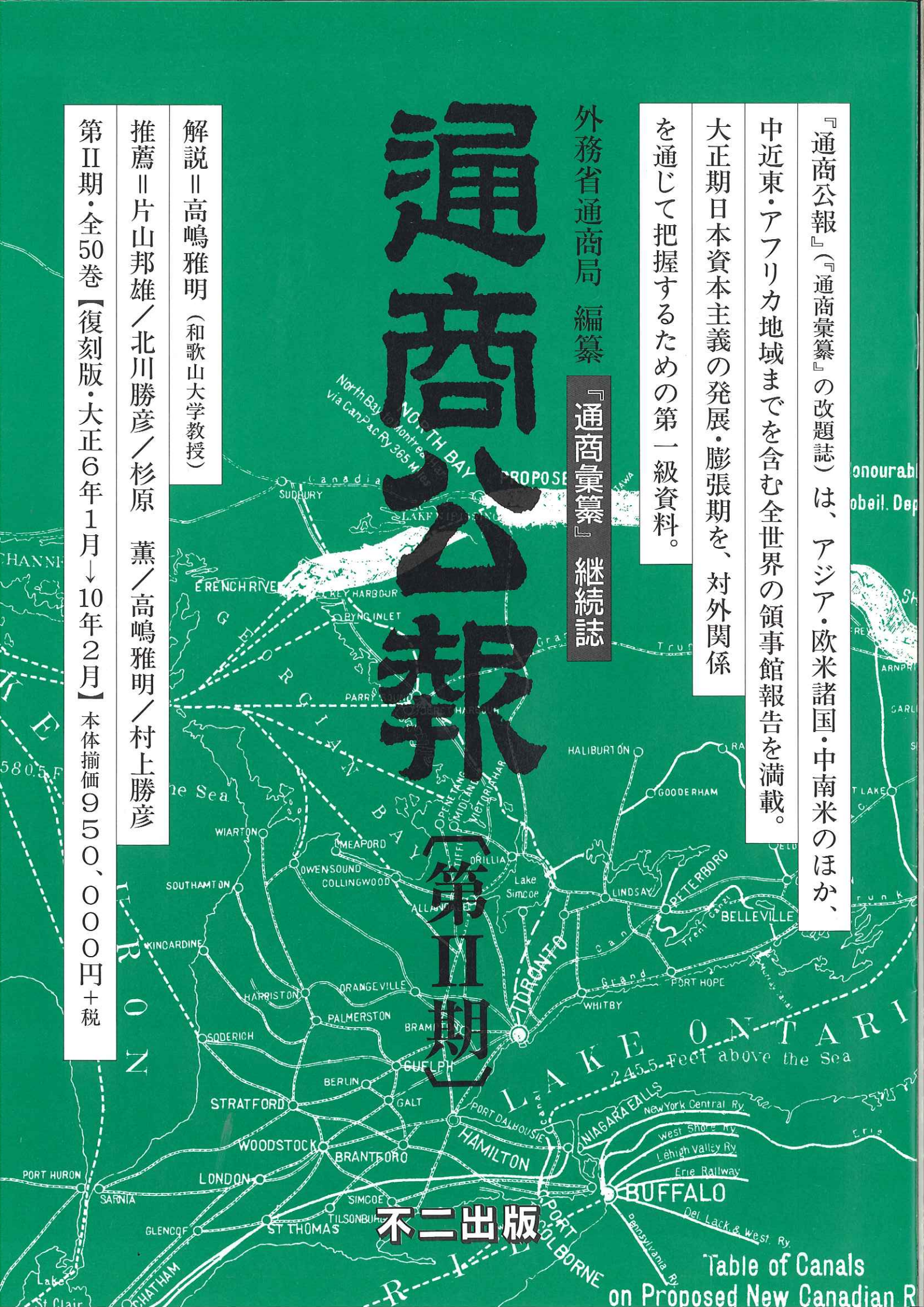
『通商公報』（『通商彙纂』の改題誌）は、アジア・欧米諸国・中南米のほか、中近東・アフリカ地域までを含む全世界の領事館報告を満載。大正期日本資本主義の発展・膨張期を、対外関係を通じて把握するための第一級資料。

解説＝高嶋雅明（和歌山大学教授）

推薦＝片山邦雄／北川勝彦／杉原　薫／高嶋雅明／村上勝彦

第II期・全50巻【復刻版・大正6年1月→10年2月】本体揃価950、000円＋税

不二出版



『通商公報』推薦の辞

日本外航海運史の研究にも貴重な資料を提供

片山邦雄（大阪学院大学国際学部教授）

〈五十音順〉

日本外務省は世界各地に駐在する日本領事の報告のうち、通商に関する部分を編纂して、定期刊行物とした。内容は、経済事情、貿易、金融、運輸、その他にわたり、実に豊富である。形式的には、調査報告、諸統計、巡回復命書など様々である。

領事は職務上海運と関わりが深く、港湾都市に駐在している場合が多い。私自身は、日本外航海運を研究してきたので、当然これらの領事報告から学ぶことが大であった。年を追って、領事報告を読んでいくうちに、世界経済の発展の中で国際輸送ネットワークが、次第に緻密化され、合理化されていったこと、またその中における競争の態様も知ることができたのである。

私の感じるところでは、領事報告は単に客観的事実を冷徹に報道、分析しているだけではない。報告者の態度、熱気、意見、提言を見ることもできる。つまり、当時の日本人の国際経済へのまなざしのありようも知ることができるのである。

近代日本経済を国際的視野のうちに研究していくことは、今日一段と重要性を増している。多くの研究者にとって、領事報告を参照することにより大きな収穫が得られるものと確信している。それだけではなく、領事報告を見ることによって、研究のテーマをつかむことも可能である。

このたび不二出版によって復刻される『通商公報』は、大正期のものである。この間に起こる第一次世界大戦期には、日本経済の怒濤のような海外進出が行われる。まさに近代日本経済の「夏」である。日本経済にとっての国際関係は、極めて複雑、多様なものとなっていく。この中で『通商公報』をいかに読み解いていくかが、我々の課題であると思う。

『通商公報』推薦の辞

日本経済史研究に国際的視野を導入するための一級資料

北川勝彦（関西大学経済学部教授）

〈五十音順〉

ポスト冷戦期から二一世紀にむかって日本の国際関係には新基準が求められている。「未来に関する省察は過去に関する省察に倣うのを常道とする」という言葉には、叡智の真髄を感じさせるものがあるが、今日ほど諸外国との関係についての理論的および歴史的研究を必要としている時代もないであろう。

『通商公報』は、ポスト第一次世界大戦期を含めて一二年間にわたって外務省通商局から発行されてきた。『通商公報』が刊行された時代の日本外交は、欧米諸国への不信感と西洋列強が日本を猜疑心で見ているとする二重の被害者意識にたった「アジア主義的思想」と西洋諸国との理解と提携の下に、中国その他の地域での日本の権益をまもるという「東西協調的思想」の間の危うい均衡のなかで展開されようとしていた。一方、第一次世界大戦後発展してきた綿織物業や雑貨品工業の新たな輸出市場として近東、バルカン諸国それに中南米やアフリカが注目されるようになっていたのである。『通商公報』の時代には、当時は未知の市場であったアフリカ地域に関する領事報告でさえ、七五六件に達している。これらの通商情報は、ポートサイド、アレキサンドリア、ケープタウン駐在の領事からよせられたものであった。『通商公報』に掲載された通商情報は、当時の人々にとっても、現在のわれわれにとっても日本の国際経済関係を認識するうえで貴重な資料である。

『通商公報』の研究を通して、国際経済関係史の立場から多様な地域の経済史研究において独自の視角と枠組をそれぞれの地域の経済史研究者に対して提起できる。また、『通商公報』の広範な利用は、国際的契機のなかで日本経済史の展開を考察する道を拓き日本経済史研究に厚みを加えることができるであろう。産業国家としての日本の興隆や世界各地と日本の特有の関係などが、相互の人々の生活に与えてきた影響を描き出す一級の資料として、『通商公報』が広く内外の研究者に利用されることが期待される。

『通商公報』内容見本

通商公報第一巻（自第一號至第二十六號）（自大正元年四月至同六月）索引

掲載欄　標題　號數　頁數

○在安東帝國領事館
商業　安東大正元年貿易概況……一　一四―一七
財政　安東金融及貨幣流通狀況……三　一〇三―一〇六

○在奉天帝國總領事館
商業　奉天地方人蔘販賣狀況……一　一二
同　奉天地方貿易概況……一　一五
同　隨談輸入力車の需要……九　三二
同　木邦製品と競爭せる歐米製品の需要狀況（奉天地方）……九　三三
同　奉天に於ける米卸相場（大正元年）……一　一六
同　豆粕に關する米卸相場……一　一七
同　豆粕に關する狀況……一　一八
同　印刷機械類の需要……一　二一
同　錦州に於ける花鑑需要狀況……一　二六
同　錦州に於ける水稻狀況……一　二七
同　錦州附近の產業交通狀態……一　二八
同　旅順附近產業交通狀態……一　二九
同　錦州鐵道事情（上）……一　三〇
同　同上（下）……一　三一
同　木邦製實藥取扱商……一　三二
紹介　耕織物取扱商……一　三三
同　雜貨及時計商店……一　三四
同　帽子取扱商……一　三五

農業　錦州地方中心となる交通狀態……一　三六
同　木邦製品取扱商……一　三七
同　錦州附近產業交通狀態……一　三八
同　同上……一　三九
同　同上……一　四〇
紹介　木邦製實藥取扱商……一　四一
同　雜貨及時計商店……一　四二
同　帽子取扱商……一　四三

商業　印刷機械類の需要……一　四六
農業　鐵嶺附近農作物狀況……一　四七
雜報　鐵嶺地方に於ける工場……一　四八
紹介　木邦製實藥取扱商……一　四九
同　小間物及化粧品取扱商……一　五〇

○在長春帝國領事館
商業　滿洲大豆の耕作に就て……一　五八―一　六二
紹介　木邦製實藥取扱商……一　六一
同　セルロイド製品取扱商……一　六二
同　時計取扱商……一　六三

○在吉林帝國領事館
商業　吉林帝國物產出高（四十四年）……九　四四―一　四四
同　木材輸出狀況……一　四五
交通　吉林輸出貨物運賃……一　四六

○在哈爾賓帝國總領事館
商業　哈爾賓に於ける輸入貨高（千九百十二年）……八　三八―一　三九
同　松花江航運による輸出入概況（千九百十二年）……一　四〇
同　レモン需要狀況……一　四一
同　木材輸出狀況……一　四二
交通　東清鐵道汽車發着時刻改……一　四三
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（二月中）……一　四四
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（三月中）……一　四五
紹介　セルロイド製品取扱商……一　四六

○在新民府帝國總領事館分館
商業　新民府姿態物產統計……一　二二
同　新民府姿態物產……一　二三
同　新民府產業要物產並に貨幣相場（二月中）……一　二四
同　同上（三月中）……一　二五
同　新民府場市商況（大正元年）……一　二六
同　滿洲の頭類輸出入狀況……一　二七
同　海產物需要狀況（滿洲）……一　二八
同　新民府產業物產並に貨幣相場（五月中）……一　二九
同　奉天省大民屯電報……一　三〇
事情　奉天省法庫縣事情……一　三一
同　奉天省彰武縣事情……一　三二
同　奉天省昌圖縣事情……一　三三
同　奉天省鳳凰縣事情……一　三四
同　奉天省鳳凰縣事情……一　三五
同　鳳凰城電報……一　三六

○在遼陽帝國領事館
商業　遼陽產業商況……一　三七
同　遼陽に於ける黃麻製品……一　三八
同　印刷機械類……一　四〇
工業　本邦人の釀造業……一　四一
同　遼陽產內地人經營の炭坑……一　四二
鑛業　日本鑛品取扱商……一　四三
紹介

○在鐵嶺帝國領事館
商業　馬鈴薯狀況……一　四五
同　鐵嶺に於ける黃麻製品狀況……一　四六

○在安東帝國領事館
商業　安東大正元年貿易概況……一　四四―一　四七
財政　安東金融及貨幣流通狀況……一　四八―一　四九

○在奉天帝國總領事館
商業　奉天地方人蔘販賣狀況……一　一二
同　奉天地方貿易概況……一　一五
同　隨談輸入力車の需要……九　三二
同　木邦製品と競爭せる歐米製品の需要狀況（奉天地方）……九　三三
同　奉天に於ける米卸相場（大正元年）……一　一六
同　豆粕に關する米卸相場……一　一七
同　豆粕に關する狀況……一　一八
同　印刷機械類の需要……一　二一
同　錦州に於ける花鑑需要狀況……一　二六
同　錦州に於ける水稻狀況……一　二七
同　錦州附近の產業交通狀態……一　二八
同　旅順附近產業交通狀態……一　二九
同　錦州鐵道事情（上）……一　三〇
同　同上（下）……一　三一
同　木邦製實藥取扱商……一　三二
紹介　耕織物取扱商……一　三三
同　雜貨及時計商店……一　三四
同　帽子取扱商……一　三五

農業　錦州地方中心となる交通狀態……一　三六
同　木邦製品取扱商……一　三七
同　錦州附近產業交通狀態……一　三八
同　同上……一　三九
同　同上……一　四〇
紹介　木邦製實藥取扱商……一　四一
同　雜貨及時計商店……一　四二
同　帽子取扱商……一　四三

商業　印刷機械類の需要……一　四六
農業　鐵嶺附近農作物狀況……一　四七
雜報　鐵嶺地方に於ける工場……一　四八
紹介　木邦製實藥取扱商……一　四九
同　小間物及化粧品取扱商……一　五〇

○在長春帝國領事館
商業　滿洲大豆の耕作に就て……一　五八―一　六二
紹介　木邦製實藥取扱商……一　六一
同　セルロイド製品取扱商……一　六二
同　時計取扱商……一　六三

○在吉林帝國領事館
商業　吉林帝國物產出高（四十四年）……九　四四―一　四四
同　木材輸出狀況……一　四五
交通　吉林輸出貨物運賃……一　四六

○在哈爾賓帝國總領事館
商業　哈爾賓に於ける輸入貨高（千九百十二年）……八　三八―一　三九
同　松花江航運による輸出入概況（千九百十二年）……一　四〇
同　レモン需要狀況……一　四一
同　木材輸出狀況……一　四二
交通　東清鐵道汽車發着時刻改……一　四三
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（二月中）……一　四四
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（三月中）……一　四五
紹介　セルロイド製品取扱商……一　四六

縮小しています。

『通商公報』内容見本

甲、館別

○在支那帝國公使館
掲載欄　標題　號數　頁數
時事　支那伊太利間直接取引の仲介商會設立……一　二八―二九

○在間島帝國總領事館
商業　間島邦人貿易概況（自大正元年十月至同年十二月）……三　五五―一　五六
同　間島大正元年貿易年報……三　五六―一　五七
同　間島大正二年第一季貿易狀況……一　五八
同　黃麻製品需要狀況……一　六〇
同　間島の牛疫に就て（延吉村）……一　六一
畜產業　間島の牛疫に就て（馬平村）……一　六二

○在局子街帝國總領事館分館
畜產業　間島の牛疫に就て（局子街）……一　六六
農業　雜穀豐作の終了……一　六九
畜產業　間島の牛疫に就て（頭道溝）……一　七〇
交通　琿蒲河全部解氷……一　七一

○在琿春帝國總領事館分館
紹介　寶麻取扱商……一　三一―一　三三

○在新民府帝國總領事館分館
掲載欄　標題　號數　頁數
商業　新民府姿態物產並に貨幣相場（二月中）……一　二四―一　二六
同　新民府姿態商況……一　二七
同　新民府產業要物產並に貨幣相場（三月中）……一　二八
同　同上（四月中）……一　二九
同　新民府場市商況（大正元年）……一　三〇
同　滿洲の頭類輸出入狀況（滿洲）……一　三一
同　海產物需要狀況（滿洲）……一　三二
同　新民府產業物產並に貨幣相場（五月中）……一　三三
同　奉天省大民屯電報……一　三四
事情　奉天省法庫縣事情……一　三五
同　奉天省彰武縣事情……一　三六
同　奉天省昌圖縣事情……一　三七
同　奉天省鳳凰縣事情……一　三八
同　鳳凰城電報……一　三九

○在遼陽帝國領事館
商業　遼陽產業商況……一　三七
同　遼陽に於ける黃麻製品……一　三八
同　印刷機械類……一　四〇
工業　本邦人の釀造業……一　四一
同　遼陽產內地人經營の炭坑……一　四二
鑛業　遼陽產內地人經營の炭坑……一　四三
紹介　日本鑛品取扱商……一　四四

○在鐵嶺帝國領事館
商業　馬鈴薯狀況……一　四五
同　鐵嶺に於ける黃麻製品狀況……一　四六

○在安東帝國領事館
掲載欄　標題　號數　頁數
商業　安東大正元年貿易概況……一　四四―一　四七
財政　安東金融及貨幣流通狀況……一　四八―一　四九

○在奉天帝國總領事館
商業　奉天地方人蔘販賣狀況……一　一二
同　奉天地方貿易概況……一　一五
同　隨談輸入力車の需要……九　三二
同　木邦製品と競爭せる歐米製品の需要狀況（奉天地方）……九　三三
同　奉天に於ける米卸相場（大正元年）……一　一六
同　豆粕に關する米卸相場……一　一七
同　豆粕に關する狀況……一　一八
同　印刷機械類の需要……一　二一
同　錦州に於ける花鑑需要狀況……一　二六
同　錦州に於ける水稻狀況……一　二七
同　錦州附近の產業交通狀態……一　二八
同　旅順附近產業交通狀態……一　二九
同　錦州鐵道事情（上）……一　三〇
同　同上（下）……一　三一
同　木邦製實藥取扱商……一　三二
紹介　耕織物取扱商……一　三三
同　雜貨及時計商店……一　三四
同　帽子取扱商……一　三五

農業　錦州地方中心となる交通狀態……一　三六
同　木邦製品取扱商……一　三七
同　錦州附近產業交通狀態……一　三八
同　同上……一　三九
同　同上……一　四〇
紹介　木邦製實藥取扱商……一　四一
同　雜貨及時計商店……一　四二
同　帽子取扱商……一　四三

商業　印刷機械類の需要……一　四六
農業　鐵嶺附近農作物狀況……一　四七
雜報　鐵嶺地方に於ける工場……一　四八
紹介　木邦製實藥取扱商……一　四九
同　小間物及化粧品取扱商……一　五〇

○在長春帝國領事館
商業　滿洲大豆の耕作に就て……一　五八―一　六二
紹介　木邦製實藥取扱商……一　六一
同　セルロイド製品取扱商……一　六二
同　時計取扱商……一　六三

○在吉林帝國領事館
商業　吉林帝國物產出高（四十四年）……九　四四―一　四四
同　木材輸出狀況……一　四五
交通　吉林輸出貨物運賃……一　四六

○在哈爾賓帝國總領事館
商業　哈爾賓に於ける輸入貨高（千九百十二年）……八　三八―一　三九
同　松花江航運による輸出入概況（千九百十二年）……一　四〇
同　レモン需要狀況……一　四一
同　木材輸出狀況……一　四二
交通　東清鐵道汽車發着時刻改……一　四三
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（二月中）……一　四四
同　東清、烏蘇里兩鐵道營業成績（三月中）……一　四五
紹介　セルロイド製品取扱商……一　四六

○在間島帝國領事館
掲載欄　標題　號數　頁數
商業　黃麻製品需要狀況……一　三一
財政　黑龍屯帖の暴落……一　三二

○在天津帝國總領事館
商業　天津米穀市況……一　三五―一　三七
同　天津に於ける牛馬皮並に牛骨……一　三八
同　濟南の商況不振……一　三九
工業　濟南機械會社設立計畫……一　四〇
交通　濟南小中心となる山東、津浦兩鐵道の比較……一　四二―一　四三
紹介　牛馬皮並に牛骨取扱商……一　四四

○在芝罘帝國領事館
商業　芝罘地方產出棉寶商狀況……一　一〇
同　青島及芝罘に於ける麥酒……一　一二
同　芝罘に於ける瓦斯……一　一三
同　芝罘に於ける セメント……一　一四
同　農作物と市況との關係（山東產）……一　一五
工業　烟臺電燈公司增資に就て……一　一六
農業　山東省農作物狀況……一　一七
同　山東省の實藥業者……一　一八
紹介　綿織物取扱商……一　一九
同　山東省米邦貿易商……一　二〇
同　セルロイド製品取扱商……一　二一
同　芝罘及青島に於ける時計商……一　二二

○在上海帝國總領事館
商業　本邦製英大小ジャッ輸入商……一　一―一　一
同　綿織物取扱商……一　一―一　一
同　在上海本邦貿易業者氏名……一　一―一　一
同　ウォネ・ーレが帝製造業者……一　一―一　一
同　海陸產物其他取扱商……一　一―一　一
同　印刷機械類取扱商……一　一―一　一
同　上海に於ける油糧販賣店……一　一―一　一
同　馬鈴薯及歐作並にセルロイド製品取扱商……一　一―一　一
同　上海に於けるデパートメントストアー……一　一―一　一
同　上海に於ける醫學校及醫院名……一　一―一　一
同　林檎及蘋菓取扱商……一　一―一　一
同　上海に於ける時計商……一　一―一　一
同　上海に於ける小豆取扱商……一　一―一　一
同　米穀肥料蔬菜取扱商……一　一―一　一
同　魚鳥取扱商……一　一―一　一

○在南京帝國領事館
商業　津浦鐵道開通の影響……一　一―一　一
同　南京に於けるカメノ絲需要狀況……一　一―一　一
同　南京市場の動搖……一　一―一　一
同　印刷機械類の需要……一　一―一　一
同　江蘇省立第一工場（從前製底所）の現狀……一　一―一　一
同　蘇湖附近の河水汎濫……一　一―一　一
同　南京造幣廠敷地の近狀……一　一―一　一
同　江蘇銀行の近狀……一　一―一　一
交通　青島、海州間小蒸汽船開通……一　一―一　一

○在蘇州帝國領事館
掲載欄　標題　號數　頁數
商業　革命後に於ける蘇州商況……一　一―一　一
同　セルロイド及セメント商況……一　一―一　一
同　蘇州附近製藥狀況……一　一―一　一
同　蘇州附近產種業概況……一　一―一　一
同　無錫附近製藥狀況……一　一―一　一
紹介　蘇州附近產種業概況……一　一―一　一
同　本邦製ゲル、英大小及雜貨取扱商……一　一―一　一
同　セルロイド及セメント取扱商……一　一―一　一
同　蘇州に於ける本邦貿易商……一　一―一　一

○在杭州帝國領事館
商業　杭州に於ける米……一　一―一　一
同　杭州四十四年貿易年報……一　一―一　一
同　杭州四十四年貿易概況……一　一―一　一
同　杭州市場の動相……一　一―一　一
工業　杭州水道會社設立計畫……一　一―一　一
同　杭州機力織物……一　一―一　一
同　杭州機力織物狀況……一　一―一　一
同　蘇嘉興府蘇山縣の米產……一　一―一　一
紹介　杭州機力織物狀況……一　一―一　一
同　杭州に於ける雜貨商……一　一―一　一
同　杭州に於ける時計商……一　一―一　一

○在漢口帝國總領事館
商業　漢口商業勢力範圍（上）……一　二―一　六

縮小しています。

『通商公報』推薦の辞

両大戦間期の日本経済史研究の基本資料

杉原　薫（大阪大学大学院経済学研究科教授）

（五十音順）

明治日本の官製海外情報の最も体系的な集成である『通商彙纂』の資料的価値は、角山栄編『日本領事報告の研究』（一九八六年）や、マイクロフィルム版の出現、さらに不二出版による復刻版の刊行などによって広く知られるようになった。しかし、『日本領事報告の研究』のベースとなった研究会でも、商社や銀行の情報収集機能が十分でなかった明治中期頃までの官製情報の資料的価値には異論の余地はなかったが、産業革命が進行した後の大正期に刊行された『通商公報』の意義についてはそれほどはっきりした合意があったわけではない。

だが、近年の研究史の動向は、『通商公報』の潜在的価値を高める方向に大きく動いている。両大戦間期の日本経済史研究は、従来のように、植民地支配や侵略、戦争に帰結する東アジア内部の対抗・衝突の過程を追うだけではなく、東アジアの工業化とアジア間貿易のダイナミックな発展に体現されている協調・融合の側面にも注目し、その双方を統一的に把握する方向に向かっているからである。

第一次大戦期から一九二〇年代にかけての東アジアに生じた新しい国際経済関係の性格を理解しようとする者には、『通商公報』は、日本を中心とする通商情報を年々最も系統的に収集しているという意味において、基本資料である。またそれは、日本政府の国際経済関係認識を、他国のそれとの対比において知ることができるという点でも重要である。同時代のイギリスの領事報告を読むと、シティーを中心とするイギリスの金融・サービス利害が日本、中国の工業化の進展の中で、なんとかして自己のビジネス・チャンスをつかもうとしていたことがわかる。一九二〇年代末以降になると、中国国民党政府も、ナショナリズムの立場から通商・産業政策に関する情報を掲載した雑誌を英文で発行するようになった。『通商公報』が何に注目し、何を見逃していたかを、それらとの対比で明らかにできれば、日本の経済政策のより客観的な理解にも資するところが大きいであろう。

『通商公報』推薦の辞

世界各地の通商・経済状況を逐次報告する唯一の資料！

高嶋雅明（和歌山大学経済学部教授）

（五十音順）

『通商公報』はわが国の在外公館を発信拠点とする海外通商情報や各国（地域）の経済活動記録である「領事報告」を収録した逐次刊行物で、大正二年四月から同一三年末まで、外務省通商局の編集でほぼ週二回のペースで刊行された。さて、在外公館（領事館）網の拡充と領事報告制度の整備は明治期から進み、『通商彙纂』の発刊は海外通商情報の受け手の関心を一段と高めた。

大正期に刊行された『通商公報』は基本的には『通商彙纂』の特徴を引き継ぎながらも、さらに充実した内容となった。例えば、情報手段の発展ともかかわるが、「電報」などの利用によって迅速に情報を報告しようとしたことで、雑誌の初めに数ページにわたって電報欄が続くこともあった。第一次世界大戦勃発から一週間後に上海総領事は「欧州戦乱の影響―上海　第一報―」を寄せ、この領事報告は八月二〇日発行の『通商公報』に掲載された。また、従来と同じく欧米・中国地域からの情報が多かったが、新しい展開として、中近東・アフリカさらには中南米地域からの情報も継続的にもたらされるに至った。さらに、商品毎の情報や各国（地域）の経済状況・通商制度の解説に加えて、商品取扱い業者などの取引紹介が随分と増加したことである。

第一次世界大戦は日本の貿易を飛躍的に拡大させ、それを基盤に企業や地方自治体（大阪市等）が独自の情報網と報知体制を築くようになった。『通商公報』がもたらす情報の質や量、あるいは『通商公報』を媒介とする情報の報知体制が国内の関係者にどのように受けとめられ、活用されたかについての解明は今後の課題であり、そのための材料がいま提供されようとしている。また、大正期に限っても、世界各地の多種多様な通商・経済状況の情報を盛り込んだ逐次刊行物は他になく、『通商公報』は当時の日本が世界のどのような地域と分野に関心を持って係わろうとしていたかを知るうえでの資料の宝庫であるし、比較的乏しいとされている大正期日本経済を知る貴重な資料であると考える。

縮小しています。

『通商公報』内容見本

通商公報　第七七三號

大正九年十月十八日（月曜）發行

商業

輸入品

海外及國内貿易港より租借地内に輸入せられたる主なる貨物（輸入後鐵道に由り滿洲各地に轉運せられたるものを含む）

輸入品　海外及國内貿易港より租借地内に輸入せられたる主要貨物、汽船及民船に依り海外及國内貿易港より鐵道にて内地に輸入せる主要貨物

輸出品　海外及國内貿易港（輸出せる主要貨物、滿洲より再び鐵道に由り租借地に輸出せられたる主要貨物

（大正九年十月一日附左事天會國機備事務採正報告）

汽船に依るもの　貨物種類

外國綿貨類

	第一期（自四月至六月）	同九年
英國本色市布	三六一疋	一、四四〇疋
日本同	五三、七五五	四六、七四〇
米國本色粗布、細布	一、二四六	三七七

1　第七七三號　大連貿易額

英國同	九八	二〇〇
日本同	二、〇八九	三六、八六〇
英國漂布市	一、三八九	一〇、二一九
日本同	三九、三一八	九、一二〇
英國本色粗斜紋布	三〇	一〇、八三五
漂粗斜紋布	—	二、九五二
日本同	四八〇	一二六
漂細斜紋布	—	一、八〇八
英國同	三、九、五四六	二、三八二
英國本色洋傳布	五〇	七五五
日本同	八、五三八	一三、一二二

2　第七七三號　大連貿易額

印花布	一三一、二九七	一六、三五八
洋紅布、染色洋傳布	六一、五六三	一、〇四三
染色布		
玄素羽朋	三、〇八一	一、二九九
玄素紗西絽	七六九	六〇
玄素羽綾	二、六九二	五五七
玄素羽朋	一〇、九二一	四〇六
色素羽朋	一、四二九	
色素紗西絽	六、九五二	
色素羅綾	四、四九二	一、一〇
色素羽綾	三〇、八〇一	二、三五八
粗斜紋布	一七、一九七	一、七二四
細斜紋布	五二八	九九四
機花羽朋	二八〇	三八七
機花毒西絽	四、六三三	一、八二二
機花羽綾	四七	一一〇
機花羽綾	一、一二二	二、八一〇
素市布、粗布、細布	—	一、五八一
本色素、鼠布、絡花絽	一四七三九	二、〇〇七
漂白、染色、印花、素鼠布、縐法絽	三六	三五
染紗織、絽布、絽法絽		
仿製土布		
日本染色（機織）	三〇九、九八六	一七七、八六〇
日本染色（同）	二四五、三七	一一、八二〇
日本絽布	六、一三七、二二四	一、三六四〇三四碼
毯	三六、四八三條	六、七七八條
面巾、帶巾、床巾	四〇、九八六打	三、一七八一打
綿紗		
印度本色	八、六一八擔	—
日本本色	—	七、四九一　六擔

漂白、光、柔光、染色	二八二	三七三
中國綿貨類		
粗布	一四、一八一疋	二九、九一九疋
紐斜紋布	六〇八	—
柳條布	三、二四四五	五一、一
土布	一、〇五九擔	一、二三八擔
毯	五八七條	三四八九〇條
綿紗	七、五五五擔	二、九一一擔
雜貨疋貨類		
帆布、綱帆布	一四九、六一二碼	
綱	二、五一一六斤	六、九〇二
絲麻雜貨機織銀		
外國五金及礦石類		
沼片等（アルミニウム）	六三擔	一六擔
鉛製料	一〇	四八
鉛（アンチモニー）	五	一
黄銅		
條、竿	一二九	一一三
片、板	三三九	一六二〇
他類黄銅	四〇三	四〇三
紫銅條竿	四六	二八一八
紫銅片、板	四九五六	一六五
紫銅絲	二四一	一六八
他類紫銅	九三	一一五三
筆紙	二一〇	一八八
鐵		
三角鐵、工字鐵、丁字鐵鉄、水流鐵	八三、八一七	六五、七二一

3　第七七三號　大連貿易額

鐵絲元釘	一〇、五一六	一六、一九七
生鐵	二六、三六六	一五、七七六
管子	五三、五四二	二〇、五二三
軌	九八、五三七	五、八九三
片、板	二二、三一五	二九、四二七
他類鐵	一九、六三七	一九、〇三四
鍍鋅鐵		
片鋅鐵	九、六二四	九、五九六
絲	二、一一五	一、二二四
他類鍍鋅鐵	四、九五五	二、二八六
鋼鐵製料	五、一五五	四〇六
鉛塊、條	三、九九	一、八八一
鉛製料	二	一六二
鋅鋼砂	四	—
錫（ブリキ）	一	一
錫（ケ）	二一二	七三四
銀	四〇八	八〇九七
三角鋼、竹節鋼、鋼條	二、七九〇	六八三
鋼片、板	四五五	—
他類鋼	一	一、七〇三
錫製料	二、九八二	一、一三
馬口鐵	一、五五七	一一二
鉛管	二六一	二一二
鉛製料		
中國五金及礦石類		
黄銅製料、紫銅製料	六六	二七九
紫銅	—	—
生鐵	—	—

4　第七七三號　大連貿易額

鉛線製料	七五二	二八六擔
鉛	—	三七七、九五五箇
水銀	二	二二四八、六二〇箇
錫	六	四三五、〇六〇
外國雜貨類		
石綿	二八六擔	五九六擔
新蒸麻袋	一四八六、六七〇箇	三七七、九五五箇
舊蒸麻袋	四三五、〇六〇	二二四八、六五五
大茸、絨豆	七三六擔	一、七九二四二擔
水泥	二二九七一五	一七五、四三五
米穀	二〇、一一〇	二二、七六六
絲袋、綿	二四六	二五五
紙卷煙草	三三一、四一〇千枚	三三七、八七二千枚
硝砂	二擔	一擔
煤（石炭）	一〇、七二九噸	三三、一五七噸
焦炭、焦煤（コークス）	三〇	五四
電氣材料及設備品	三六、七八九四個錢平	三五四、六四三四個錢平
乾魚、鹹魚	三、〇〇三四擔	四、九五四擔
鰹節粉	九四〇	八四三
鮮魚	三	三、〇二七
鹽魚	七、一九六	九三〇九
鮮魚	七、九五〇箱	七四五六箱
玻璃片	二、二〇七擔	六、八三一擔
石盖（石膏）	六、一一一ケロス	
自來火（燐寸）	一四八、三二五個平	一〇五、一三六個平
材	四、三三〇、〇〇〇ガロン	四九三、八五〇ガロン
美國煤油	一二、一九八〇	七〇〇
樂	一九、一六四三ガロン	二五七、五〇五ガロン
日本同		
滑物油		
鐵路材料		

5　第七七三號　大連貿易額

鉄道材料（軍需品ニ非ザル）	七八六擔	一三九擔
枕木	一〇七、九三五箇	三、〇〇三擔
他類鐵道材料（軍需品ニ非ザル）	一、六八八擔	七八、九四三
鋼	五六、六四七	一、八一一八
鮮	五、二五四	六、一五四
棉花	一、六九四間錢平	九九
鮮蛋（鶏卵）	一〇、六六三擔	二八四
乾魚、鹹魚	六五三	九〇二一個錢平
粉	六〇三	硫黄
菓	一、三六四	一、〇四三擔
蓋	四六一	一、一〇二
生牛皮	一〇〇八	五五一
熟牛皮	九九	二、〇四三擔
藥材	二八四	一、一〇二
豆油	九〇二一個錢平	五五一
花生油	一〇、六六三擔	一〇〇八
上等紙	六〇三	四六一
次等紙	一、三六四	四三、二二〇双
下等紙	四六一	—
鹽	一〇〇八	—
鞋	四四、六二九双	—
乾蝦	四三、二二〇双	—
野蠶絲	—	一八〇擔
蠶繭	—	七〇
洋式絹綿織	二二〇擔	一三
胡	七〇	一六、八三四打
砂	六、一七二打	一〇擔
石料（雲石、花石等）	一、一六拾	二二〇個錢平
牛油	二〇個錢平	二七七九擔
茶	八、一五一	三〇二
菰蓆（紫蓆等）	九九〇八	二、一七六
菰蓆（刺同）	一、〇二九	九二五
民船に依るもの		
餅	三八、五二一五	五五八

縮小しています。

『通商公報』推薦の辞

〈五十音順〉

転換期日本の世界的地位を照射

村上勝彦（東京経済大学教授）

大正時代は近代日本における転換期をなす。明治後期に産業革命を遂行し、同時に台湾・朝鮮・関東州など植民地領有の帝国と化した日本を待ちかまえていたものは何か？　大正期の日本経済をとりまく世界的環境はいかなるものであったか？　こうした設問を解く重要な鍵は当時の領事報告の中にある。明治期の『通商彙纂』の続編が大正期の『通商公報』である。『通商公報』には当時の貴重な海外通商情報が満載されているにも関わらず、従来必ずしも十分利用されてこなかった。その原因は、朝鮮や大連など植民地編入の地域が領事報告の対象から外され、その関係の研究者に利用されなくなったこともあるが、それ以上に『通商公報』の有する資料的価値がこれまで必ずしも十分に理解されてこなかったことにある。このことは、毎週二回発行され、一回が百頁余に達するという大部のこの領事報告を閲覧に供する機関が限られており、利用が容易でなかったことにも因っている。

この難点を解決するこのたびの復刻版『通商公報』の出版は、日本近代経済史研究を志す者にとってたいへん喜ばしい。産業革命を経た日本資本主義は、世界市場のあり方に絶えず規定されることになった。当時の世界市場のあり方とその中での日本の対応・地位を最も克明・詳細に伝えるものが『通商公報』である。地域的には隣国中国の情報を最多とし、その他アジア諸地域、米国、欧州、ロシアなど世界各地に及び、分野的には各商品別の通商情報を中心としつつも、産業・財政金融・関税・交通・移民など広範であり、日本経済の世界的展開を跡づけている。第一次大戦好況は日本経済の規模を一挙に数倍に膨張させたが、それを支えた貿易状況は？　同時に生起した中国民族産業の勃興に伴う日中経済対抗のあり方は？　大戦後恐慌の通商面における実態は？　これら転換期日本経済の世界的地位を解きあかすに不可欠な第一級資料が『通商公報』である。

『通商公報』内容見本

縮小しています。

○各國駐在帝國名譽領事

佛領印度	西貢	名譽領事	E. Baliegé
英領錫蘭	コロンボ	同	Walter Shalgosser
濠洲	ドルーム	同	Archer Male
同	アデレード	同	Herbert Angress Parsons
布西國	ウエリングトン	同	Thomas Young
英領南阿	ケープタウン	同	Julius Jeppe
佛利加			John Walter Philips
北米合衆國	ニユー、オリヤンス	同	J. H. Longshins
同	聖路易	同	J. E. Smith
同	デンヴアー	同	A. L. Bennett
同	セビール	同	William Peter Hitchison
同	ガルヴエストン	同	J. H. Longshins
同	フイラデルフイヤ	同	J. Franklin Mcfadden
同	ボストン	同	Edwin H. Wolcott
墨西哥國	マンザニヨ	同	Elias Ruiz
亞爾然丁共和國	ブエノス、アイレス	同	Herbert Shepherd
英吉利國	リヴアプール	同	P. E. J. Hendrick
同	マンチエスター	同	W. Dr. Peel Smith
同	ミッドルスバラー	同	William Dixon
同	グラスゴー	同	A. Scott Younger
同	ボルドー	同	Edmond G. Faure
佛蘭西國	ル、ハーブル	同	William Ramsay Langskiff
同	ルーアン	同	Bronisław Goldfeder
露西亞國			

白耳義國	ブリユクセル	同	Alexandre Jolet
和蘭國	ロツテルダム	同	Hermanus De Jongh
同	アムステルダム	同	H. I. Dekker.
同	コーペンハーゲン	同	J. Henningsen
丁抹國	ブレーメン	同	Max Nossler
獨逸國	伯林	同	Gustav Jacoby
同	ライプチツヒ	同	Alexander Georg Kiesle
同	フランクフールト	同	Hermann Von Passavant
同	アムステルダム		
同	ミユンヘン	同	Edward Schlegel
同	フライブルヒ	同	Albert Schlumberger
墺地利	維也納	名譽總領事	Felix Fischer
匈牙利國	ブダペスト	名譽領事	Edmond Von Falkony
瑞西國	チユーリク	同	Hermann Madary
伊太利國	ジエノア	名譽總領事	Chevalier Edmond Canali
同	ナーブル	名譽領事	Marquis de Campolattaro, Charles Emile Copponazza
同	パレルモ	同	Chevalier Michele Pollina
同	ヴエニス	同	Commandeur Giulinum Barchet
同	ミラン	同	Cesare Frasini
瑞典國	ストツクホルム	同	Sven Gunnar Lindberg
諾威國	クリスチヤニア	名譽總領事	Andreas Cathinco Jakong

○在外帝國公館所在地

○在英帝國大使館
10, Grosvenor Spnare, London W., England.
同事務所
No. 1, Lygon Place, Ebury, Street, London S.W., England.
○在米帝國大使館
No. 1321, K. Street, N. W., Washington, D. C., U. S. A.
○在佛帝國大使館
7, Avenue Hoche, Paris, France.
○在獨帝國大使館
Kniegplatz 4, Berlin Dentschland.
○在伊帝國大使館
40, Piazza del Gesù, Rome, Italie.
○在墺帝國大使館
III, Schelzenrgasse 11, Vienne, Autriche.
○在露帝國大使館
4, Quai Français, St. Petersbourg, Russie.
○在清帝國公使館
清國直隸省北京江米（一名來風）巷街
○在和蘭帝國公使館
29, Byn Straat, La Haye, Pays-Bas.
○在墨帝國公使館
Avenida Durango Núm. 1407,
Equina de Tiarpo, México, D. F., México.
○在暹羅帝國公使館
Sunawongse Road, Bangkok, Siam.
○在伯利西爾帝國公使館
Prop. Ellenlade, No. 5, Petropolis, Rio de Janeiro, Brésil.
○在白耳義帝國公使館
172, Rue de la Loi, Bruxelles, Belgique.
○在西班牙帝國公使館
Alcalá 103, Madrid, Espana.
○在墨帝國公使館
Avenida Durango Núm. 1407,
Equina de Tiarpo, México, D. F., México.
○在瑞典帝國公使館
No. 5, Linnégatan, Stockholm, Suède.
○在智利帝國公使館
No. 398, Avenida de la República, Santiago, Chile.

○在間島帝國總領事館
清國吉林省延吉府龍井村
○在局子街間島帝國總領事館分館
清國吉林省延吉府局子街
○在頭道溝間島帝國總領事分館
清國吉林省延吉府頭道溝
○在琿春間島帝國總領事館分館
清國吉林省琿春廳琿春
○在安東帝國領事館
清國盛京省鳳凰廳安東大孤山東西街
○在奉天帝國總領事館
清國盛京省奉天府奉天大西關
○在新民府奉天帝國總領事館分館
清國盛京省新民府
○在遼陽帝國領事館
清國盛京省奉天府遼陽城內前衙門街
○在鐵嶺帝國領事館
清國盛京省奉天府鐵嶺城內指局胡同
○在牛莊帝國領事館
清國盛京省錦州府營口
○在長春帝國領事館
清國吉林省長春府寬城子三道街
○在吉林帝國領事館
清國吉林省吉林表大門中門
○在哈爾賓帝國總領事館
清國吉林省雙城廳新哈爾賓阿什河街第八十一號
○在齊齊哈爾帝國領事館
清國黑龍江省齊齊哈爾財神廟街南方街北
○在天津帝國總領事館

通商公報〔第II期〕全50巻

⊙復刻版概要——

■収録原本の内容

『通商公報』（外務省発行）

第II期（大正6年1月→大正10年2月）

『通商彙纂』の継続後誌『通商公報』は、大正2年4月から大正13年12月、1、2208号（通巻号数）まで刊行された。弊社では、これを3期にわけ、全30回配本にて復刻刊行。

■B5判／上製／中性紙使用

総頁数23、406頁

■解説＝高嶋雅明

第1回配本『『通商公報』解説・総索引」全4巻（これのみ分売可＝95、000円＋税）に収録。

■配本＝全10回配本

（'00年2月～'02年5月）

■各配本＝本体価95、000円＋税

■本体揃価950、000円＋税

⊙配本一覧

	配本回数	収録巻数	収録年月	ISBN	配本年月	価格
'99年度	第11回	第46～50巻	大正6年1月～6年5月	4-8350-4845-8	'00年2月	各配本ごと本体価95,000円＋税
'00年度	第12回	第51～55巻	大正6年6月～6年10月	4-8350-4851-2	'00年5月	
	第13回	第56～60巻	大正6年11月～7年3月	4-8350-4857-1	'00年8月	
	第14回	第61～65巻	大正7年4月～7年8月	4-8350-4863-6	'00年11月	
	第15回	第66～70巻	大正7年9月～8年1月	4-8350-4869-5	'01年2月	
'01年度	第16回	第71～75巻	大正8年2月～8年6月	4-8350-4875-X	'01年5月	
	第17回	第76～80巻	大正8年7月～8年11月	4-8350-4881-4	'01年8月	
	第18回	第81～85巻	大正8年12月～9年4月	4-8350-4887-3	'01年11月	
	第19回	第86～90巻	大正9年5月～9年9月	4-8350-4893-8	'02年2月	
'02年度	第20回	第91～95巻	大正9年10月～10年2月	4-8350-4899-7	'02年5月	

続刊予定

（第III期・全50巻）大正10年3月→大正13年12月——第21→30回配本

不二出版
〒113-0023 東京都文京区向丘一-二-一二
TEL ○三-三八一二-四四三三
FAX ○三-三八一二-四四六四
振替 ○○一六○-二-九四○八四

表示価格は、全て税別

『通商公報』（『通商彙纂』の改題誌）は、アジア・欧米諸国・中南米のほか、中近東・アフリカ地域までを含む全世界の領事館報告を満載。大正期日本資本主義の発展・膨張期を、対外関係を通じて把握するための第一級資料。

外務省通商局　編纂

『通商彙纂』継続誌

通商公報

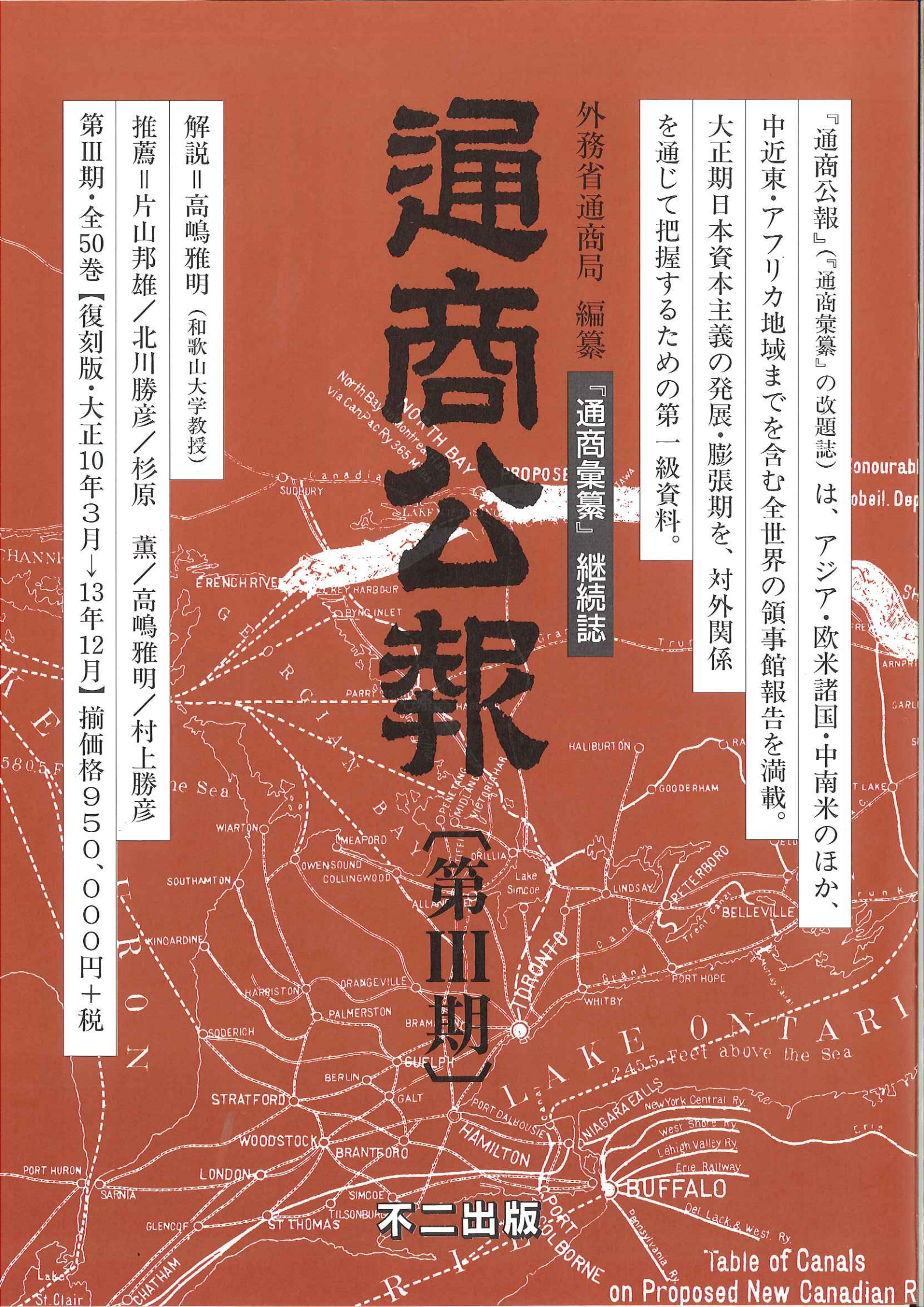
〔第Ⅲ期〕

解説＝高嶋雅明（和歌山大学教授）

推薦＝片山邦雄／北川勝彦／杉原　薫／高嶋雅明／村上勝彦

第Ⅲ期・全50巻【復刻版・大正10年3月→13年12月】揃価格950,000円＋税

不二出版



『通商公報』推薦の辞

日本外航海運史の研究にも貴重な資料を提供

片山邦雄（大阪学院大学国際学部教授）

〈五十音順〉

日本外務省は世界各地に駐在する日本領事の報告のうち、通商に関する部分を編纂して、定期刊行物とした。内容は、経済事情、貿易、金融、運輸、その他にわたり、実に豊富である。形式的には、調査報告、諸統計、巡回復命書など様々である。

領事は職務上海運と関わりが深く、港湾都市に駐在している場合が多い。私自身は、日本外航海運を研究してきたので、当然これらの領事報告から学ぶことが大であった。年を追って、領事報告を読んでいくうちに、世界経済の発展の中で国際輸送ネットワークが、次第に緻密化され、合理化されていったこと、またその中における競争の態様も知ることができたのである。

私の感じるところでは、領事報告は単に客観的事実を冷徹に報道、分析しているだけではない。報告者の態度、熱気、意見、提言を見ることもできる。つまり、当時の日本人の国際経済へのまなざしのありようも知ることができるのである。

近代日本経済を国際的視野のうちに研究していくことは、今日一段と重要性を増している。多くの研究者にとって、領事報告を参照することにより大きな収穫が得られるものと確信している。それだけではなく、領事報告を見ることによって、研究のテーマをつかむことも可能である。

このたび不二出版によって復刻される『通商公報』は、大正期のものである。この間に起こる第一次世界大戦期には、日本経済の怒濤のような海外進出が行われる。まさに近代日本経済の「夏」である。日本経済にとっての国際関係は、極めて複雑、多様なものとなっていく。この中で『通商公報』をいかに読み解いていくかが、我々の課題であると思う。

『通商公報』推薦の辞

日本経済史研究に国際的視野を導入するための一級資料

北川勝彦（関西大学経済学部教授）

〈五十音順〉

ポスト冷戦期から二一世紀にむかって日本の国際関係には新基準が求められている。「未来に関する省察は過去に関する省察に倣うのを常道とする」という言葉には、叡智の真髄を感じさせるものがあるが、今日ほど諸外国との関係についての理論的および歴史的研究を必要としている時代もないであろう。

『通商公報』は、ポスト第一次世界大戦期を含めて一二年間にわたって外務省通商局から発行されてきた。『通商公報』が刊行された時代の日本外交は、欧米諸国への不信感と西洋列強が日本を猜疑心で見ているとする二重の被害者意識にたった「アジア主義的思想」と西洋諸国との理解と提携の下に、中国その他の地域での日本の権益をまもるという「東西協調的思想」の間の危うい均衡のなかで展開されようとしていた。一方、第一次世界大戦後発展してきた綿織物業や雑貨品工業の新たな輸出市場として近東、バルカン諸国それに中南米やアフリカが注目されるようになっていたのである。『通商公報』の時代には、当時は未知の市場であったアフリカ地域に関する領事報告でさえ、七五六件に達している。これらの通商情報は、ポートサイド、アレキサンドリア、ケープタウン駐在の領事からよせられたものであった。『通商公報』に掲載された通商情報は、当時の人々にとっても、現在のわれわれにとっても日本の国際経済関係を認識するうえで貴重な資料である。

『通商公報』の研究を通して、国際経済関係史の立場から多様な地域の経済史研究において独自の視角と枠組をそれぞれの地域の経済史研究者に対して提起できる。また、『通商公報』の広範な利用は、国際的契機のなかで日本経済史の展開を考察する道を拓き日本経済史研究に厚みを加えることができるであろう。産業国家としての日本の興隆や世界各地と日本の特有の関係などが、相互の人々の生活に与えてきた影響を描き出す一級の資料として、『通商公報』が広く内外の研究者に利用されることが期待される。

『通商公報』内容見本

縮小しています。

通商公報第一巻（自第一號至第二十六號／自大正元年四月至同六月）索引

甲、館別

◎在支那帝國公使館

標題　頁

時事　支那伊太利間直接取引の仲介商會設立……一二五―一二六

◎在間島帝國總領事館

掲載欄　標題　號數　頁數

商業　間島第四季貿易狀況（自大正元年十月至同年十二月）……三三　五六五―五七四

同　間島大正元年貿易年報……三四　五七五―五八五

同　間島大正二年第一季貿易狀況……八　六六一―六八六

同　黄旗堡貿易需要狀況……八　八五一―八八六

畜產業　間島の牛疫に就て（龍井村）……二　六

畜產業　間島の牛疫に就て（局子街）……二　六

◎在局子街帝國總領事館分館

畜產業　間島の牛疫に就て（鎮道廳）……二　六

◎在頭道溝帝國總領事館分館

農業　雑穀糧種の統一……三　一〇一〇

畜產業　間島の牛疫に就て（鎮道廳）……二　六

交通　海運河金部解氷……八　九一　九九

◎在琿春帝國總領事館分館

紹介　寶源取扱商……六　三一―三三

◎在東東帝國領事館

掲載欄　標題　號數　頁數

商業　安東大正元年貿易概況……一〇　九四一　九三

財政　安東金融及貿幣流通狀況……三　一〇四一　一〇六

◎在奉天帝國總領事館

商業　奉天地方貿易概況……一二　一〇五一　一〇六

同　奉天地方貿易需要狀況……一六　一〇六一　一〇七

同　諸國輸入力薬の需要……九　一〇七一　一〇八

同　本邦製品と競爭せる獨米製品の需要狀況（奉天地方）……九　一〇八一　一〇九

同　奉天に於ける米卸相場（大正元年）……一一　八一一　八六

同　冥帽子需要狀況……一一　八六一　八七

同　印刷機械類の需要……一一　八七一　八八

同　錦州に於ける花莖需要狀況……一一　八八一　八九

同　錦州に於ける米粕狀況……一一　八九一　九〇

農業　南滿洲に於ける米粕狀況……一一　九〇一　九一

交通　錦州から中ムレヤ、ヤ交通路……一一　九一一　九二

同　本溪湖附近產業交通狀態……一二　九二一　九三

事情　恒順附近產業情況（上）……一四　九三一　九四

同　錦州經濟事情（上）……一四　九四一　九五

紹介　本邦製藥需要總取扱商……一一　九五一　九六

同　上……一一　九六一　九七

同　胡纖物取扱商……一一　九七一　九八

同　雑貨及時計商店……一一　九八一　九九

同　帽子取扱商……一一　九九一　一〇〇

商業　印刷機械類の需要……一三　一〇〇一　一〇一

農業　鐵道地方に於ける工場……一二　一〇一一　一〇二

雑報　鐵道地方に於ける工場……一二　一〇二一　一〇三

紹介　本邦製藥需要取扱商……一二　一〇三一　一〇四

同　小間物及化粧品取扱商……一二　一〇四一　一〇五

◎在長春帝國領事館

農業　滿洲大豆の紡作に就て……三　一〇六一　一〇七

紹介　本邦製藥需要取扱商……三　一〇七一　一〇八

同　同……三　一〇八一　一〇九

同　時計取扱商……一四　一〇九一　一一〇

◎在吉林帝國領事館

農業　吉林省穀物産出高（四十四年）……九　一一〇一　一一一

交通　吉林陶賓間自動車運行狀況……一四　一一一一　一一二

◎在哈爾賓帝國總領事館

商業　哈爾賓に於ける輸入貿易（千九百十二年）……八　一一二一　一一三

同　松花江航運による輸入出入概況（千九百十二年）……一〇　一一三一　一一四

同　レモン需要狀況……一〇　一一四一　一一五

交通　東清鐵道汽車發着時刻改定……三　一一五一　一一六

同　東清、烏蘇里間鐵道發業成績（二月中）……一二　一一六一　一一七

同　東清、烏蘇里間鐵道發業成績（三月中）……一二　一一七一　一一八

紹介　セルロイド製品取扱商……一〇　一一八一　一一九

◎在芝罘帝國領事館

商業　芝罘地方產出作物概況……一〇　一一九一　一二〇

同　青島及芝罘に於ける部酒……一二　一二〇一　一二一

同　芝罘に於ける豆粕……一二　一二一一　一二二

同　芝罘に於けるセメント……一二　一二二一　一二三

同　農作物と市況との關係（山東產）……一二　一二三一　一二四

工業　廻盞電燈公司增資に就て……一二　一二四一　一二五

農業　山東省農作物狀況……一〇　一二五一　一二六

紹介　絹織物取扱商……一一　一二六一　一二七

同　山東省の實業發業者……一一　一二七一　一二八

同　山東省本邦貿易商……一一　一二八一　一二九

同　セルロイド製品取扱商……一二　一二九一　一三〇

同　芝罘及青島に於ける時計商……一二　一三〇一　一三一

◎在上海帝國總領事館

商業　本邦製英大小ソヤツ狀況……一一　一三一一　一三二

掲載欄　標題　號數　頁數

商業　黄旗堡貿易需要狀況……三　一〇三一　一〇四

財政　黄旗堡市場の暴落……一　一〇四一　一〇五

◎在天津帝國總領事館

商業　天津米穀市況……七　一三六一　一三七

同　同　天津に於ける牛馬皮革に牛骨……八　一三七一　一三八

同　清南の南況不振……一二　一三八一　一三九

工業　清南農寸會社設立計畫……一二　一三九一　一四〇

交通　清南を中心とせる山東、津浦間鐵道の比較……一二　一四〇一　一四一

紹介　牛馬皮革に牛骨取扱商……八　一四一一　一四二

◎在芝罘帝國領事館

商業　芝罘地方產出作物概況……一〇　一四二一　一四三

同　青島及芝罘に於ける部酒……一二　一四三一　一四四

同　芝罘に於ける豆粕……一二　一四四一　一四五

同　芝罘に於けるセメント……一二　一四五一　一四六

同　廻盞電燈公司增資に就て……一二　一四六一　一四七

工業　山東省農作物狀況……一〇　一四七一　一四八

農業　絹織物取扱商……一一　一四八一　一四九

紹介　山東省の實業發業者……一一　一四九一　一五〇

同　山東省本邦貿易商……一一　一五〇一　一五一

同　セルロイド製品取扱商……一二　一五一一　一五二

同　芝罘及青島に於ける時計商……一二　一五二一　一五三

◎在上海帝國總領事館

商業　本邦製英大小ソヤツ輸入商……一一　一五三一　一五四

同　絹織物取扱商……一一　一五四一　一五五

同　絹和製製造及取扱業者……一一　一五五一　一五六

同　在上海本邦貿易業者氏名……一一　一五六一　一五七

同　ラムネ、ソーダ等製造業者……一一　一五七一　一五八

同　海陸產物其他取扱商……一一　一五八一　一五九

同　印刷機械類取扱商……一一　一五九一　一六〇

同　上海に於ける油糧販賣店……一一　一六〇一　一六一

同　上海に於ける獨逸製品取扱商……一一　一六一一　一六二

同　上海に於けるテーパートメント、ストアー……一一　一六二一　一六三

同　上海に於ける醫學校及醫院名……一一　一六三一　一六四

同　林檎及蜜柑取扱商……一二　一六四一　一六五

同　上海に於ける時計商……一二　一六五一　一六六

同　上海に於ける小豆取扱商……一二　一六六一　一六七

同　米穀肥料燃料皮類取扱商……一二　一六七一　一六八

同　魚肉取扱商……一二　一六八一　一六九

◎在南京帝國領事館

商業　津浦鐵道開通の影響……一一　一六九一　一七〇

同　南京に於ける絹織要狀況……一一　一七〇一　一七一

同　セルロイド製品商況……一一　一七一一　一七二

同　印刷機械類の需要……一一　一七二一　一七三

同　江蘇省立印刷廠の近狀……一一　一七三一　一七四

工業　江蘇省立第一工場（紡績兼養成所）の現狀……一一　一七四一　一七五

農業　蕪湖附近の河水汎濫……一二　一七五一　一七六

同　南京並蕪湖の近狀……一二　一七六一　一七七

財政　江蘇銀行の近狀……一一　一七七一　一七八

同　青島、海州間小蒸汽船開航……一一　一七八一　一七九

交通

掲載欄　標題　號數　頁數

商業　上海石炭況（一月中）……一一　一七九一　一八〇

同　上海金融及貿易事情（二月中）……一一　一八〇一　一八一

同　上海石炭商況（二月中）……一〇　一八一一　一八二

同　上海雜穀及棉花市況（三月中）……一二　一八二一　一八三

同　石鹸の輸入及製造……一八　一八三一　一八四

同　金屬需要狀況……一九　一八四一　一八五

同　上海附近に於ける米……一九　一八五一　一八六

同　浙江新商況……一一　一八六一　一八七

同　上海金融及貿易事情（四月中）……一一　一八七一　一八八

同　本邦產人參商況……一一　一八八一　一八九

同　支那に於ける煙草製造狀況……一一　一八九一　一九〇

同　上海に於ける印刷機類の需要……一一　一九〇一　一九一

同　上海に於ける油糧輸入狀況……一一　一九一一　一九二

同　上海雜穀及棉花市況（四月中）……一一　一九二一　一九三

同　上海石炭商況（四月中）……一一　一九三一　一九四

同　上海に於ける纖維需要狀況……一一　一九四一　一九五

同　上海に於ける豆類輸出狀況……一一　一九五一　一九六

同　上海煙草狀況……一一　一九六一　一九七

同　鹽業需要狀況……一一　一九七一　一九八

財政　上海貨幣相場……六　一九八一　一九九

同　上海金融及爲替事情（三月中）……一一　一九九一　二〇〇

同　上海稅關外國貨幣換算率（五月中）……一一　二〇〇一　二〇一

同　上海金銀塊貨幣輸出入表（一月中）……一二　二〇一一　二〇二

同　中華買米狀況の概況……一一　二〇二一　二〇三

同　時局と上海經濟界……一一　二〇三一　二〇四

同　上海へ輸入する米穀食物の包装鹽鹽等に就て……一一　二〇四一　二〇五

同　林檎及球蜜取扱商……一一　二〇五一　二〇六

紹介　上海の實業發業者……一一　二〇六一　二〇七

掲載欄　標題　號數　頁數

商業　津浦鐵道南北運送列車增發……一一　二〇七一　二〇八

同　錦江附近汽船航路の競爭……一一　二〇八一　二〇九

事情　津浦鐵道蚌埠驛現狀……一一　二〇九一　二一〇

紹介　セルロイド製品取扱商……一一　二一〇一　二一一

◎在蘇州帝國領事館

商業　革命後に於ける蘇州商況……一一　二一一一　二一二

同　セルロイド及セメント商況……一一　二一二一　二一三

同　蘇州附近蚕種取扱狀況……一一　二一三一　二一四

同　錦鱗附近蚕種取扱狀況……一一　二一四一　二一五

同　蘇州附近蚕種取扱狀況……一一　二一五一　二一六

紹介　本邦製タオル、英大小及雑貨取扱商……一一　二一六一　二一七

同　セルロイド及セメント取扱商……一一　二一七一　二一八

同　蘇州に於ける蚕種取扱商……一一　二一八一　二一九

◎在杭州帝國領事館

商業　杭州に於ける米……九　二一九一　二二〇

同　杭州四十四年貿易年報……八　二二〇一　二二一

同　杭州地方貿易概況……一一　二二一一　二二二

工業　杭州地方カタン紡績計畫……一一　二二二一　二二三

農業　杭州地方蚕種狀況……一一　二二三一　二二四

同　舊紹興府蕭山縣の米産……一一　二二四一　二二五

同　杭州地方春蠶狀況……一一　二二五一　二二六

同　杭州に於ける雑貨商……一一　二二六一　二二七

紹介　杭州に於ける時計商……一一　二二七一　二二八

同　杭州に於ける蚕種取扱商……一一　二二八一　二二九

◎在漢口帝國總領事館

商業　漢口商業勢力範圍（上）……一一　二二九一　二三〇

『通商公報』推薦の辞

両大戦間期の日本経済史研究の基本資料

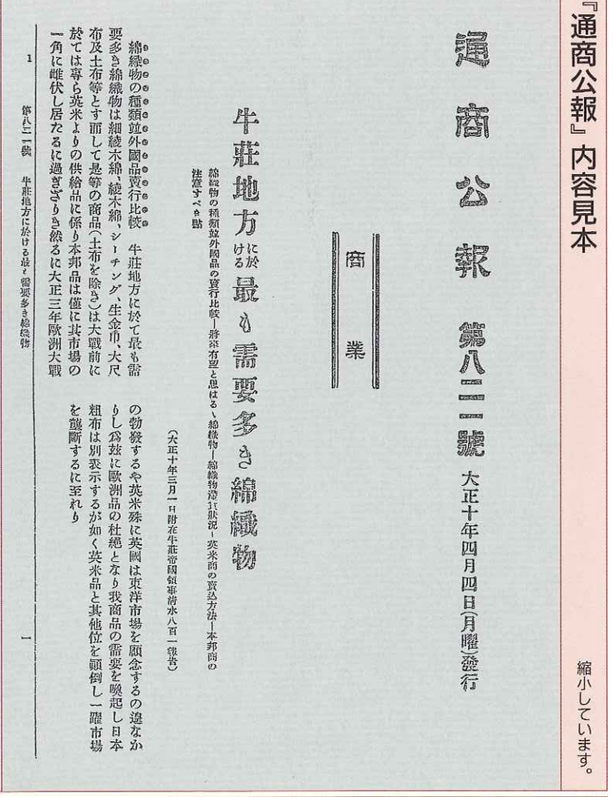
杉原　薫（大阪大学大学院経済学研究科教授）

明治日本の官製海外情報の最も体系的な集成である『通商彙纂』の資料的価値は、角山栄編『日本領事報告の研究』（一九八六年）や、マイクロフィルム版の出現、さらに不二出版による復刻版の刊行などによって広く知られるようになった。しかし、『日本領事報告の研究』のベースとなった研究会でも、商社や銀行の情報収集機能が十分でなかった明治中期頃までの官製情報の資料的価値には異論の余地はなかったが、産業革命が進行した後の大正期に刊行された『通商公報』の意義についてはそれほどはっきりした合意があったわけではない。

だが、近年の研究史の動向は、『通商公報』の潜在的価値を高める方向に大きく動いている。両大戦間期の日本経済史研究は、従来のように、植民地支配や侵略、戦争に帰結する東アジア内部の対抗・衝突の過程を追うだけではなく、東アジアの工業化とアジア間貿易のダイナミックな発展に体現されている協調・融合の側面にも注目し、その双方を統一的に把握する方向に向かっているからである。

第一次大戦期から一九二〇年代にかけての東アジアに生じた新しい国際経済関係の性格を理解しようとする者には、『通商公報』は、日本を中心とする通商情報を年々最も系統的に収集しているという意味において、基本資料である。またそれは、日本政府の国際経済関係認識を、他国のそれとの対比において知ることができるという点でも重要である。同時代のイギリスの領事報告を読むと、シティーを中心とするイギリスの金融・サービス利害が日本、中国の工業化の進展の中で、なんとかして自己のビジネス・チャンスをつかもうとしていたことがわかる。一九二〇年代末以降になると、中国国民党政府も、ナショナリズムの立場から通商・産業政策に関する情報を掲載した雑誌を英文で発行するようになった。『通商公報』が何に注目し、何を見逃していたかを、それらとの対比で明らかにできれば、日本の経済政策のより客観的な理解にも資するところが大きいであろう。

『通商公報』内容見本



通商公報　第八二一號　大正十年四月四日月曜發行

商業

牛莊地方に於ける最も需要多き綿織物

綿織物の種類並外國品賣行比較　牛莊地方に於て最も需要多き綿織物は細綾木綿、綾木綿、シーチング、生金巾、大尺布及土布等とす而して是等の商品（土布を除き）は大戰前に於て專ら英米よりの供給品に係り本邦品は僅に其市場の一角に雌伏し居たるに過ぎざりき然るに大正三年歐洲大戰の勃發するや英米殊に英國は東洋市場を顧念するの遑なかりし爲茲に歐洲品の杜絶となり我商品の需要を喚起し日本組布は別表示するが如く英米品と其他位を顧倒し一躍市場を壟斷するに至れり

（大正十年三月一日附在牛莊帝國領事館報告第八百一號）

『通商公報』推薦の辞

世界各地の通商・経済状況を逐次報告する唯一の資料！

高嶋雅明（和歌山大学経済学部教授）

『通商公報』はわが国の在外公館を発信拠点とする海外通商情報や各国（地域）の経済活動記録である「領事報告」を収録した逐次刊行物で、大正二年四月から同一三年末まで、外務省通商局の編集でほぼ週二回のペースで刊行された。さて、在外公館（領事館）網の拡充と領事報告制度の整備は明治期から進み、『通商彙纂』の発刊は海外通商情報の受け手の関心を一段と高めた。

大正期に刊行された『通商公報』は基本的には『通商彙纂』の特徴を引き継ぎながらも、さらに充実した内容となった。例えば、情報手段の発展ともかかわるが、「電報」などの利用によって迅速に情報を報告しようとしたことで、雑誌の初めに数ページにわたって電報欄が続くこともあった。第一次世界大戦勃発から一週間後に上海総領事は「欧州戦乱の影響―上海　第一報―」を寄せ、この領事報告は八月二〇日発行の『通商公報』に掲載された。また、従来と同じく欧米・中国地域からの情報が多かったが、新しい展開として、中近東・アフリカさらには中南米地域からの情報も継続的にもたらされるに至った。さらに、商品毎の情報や各国（地域）の経済状況・通商制度の解説に加えて、商品取扱い業者などの取引紹介が随分と増加したことである。

第一次世界大戦は日本の貿易を飛躍的に拡大させ、それを基盤に企業や地方自治体（大阪市等）が独自の情報網と報知体制を築くようになった。『通商公報』がもたらす情報の質や量、あるいは『通商公報』を媒介とする情報の報知体制が国内の関係者にどのように受けとめられ、活用されたかについての解明は今後の課題であり、そのための材料がいま提供されようとしている。また、大正期に限っても、世界各地の多種多様な通商・経済状況の情報を盛り込んだ逐次刊行物は他になく、『通商公報』は当時の日本が世界のどのような地域と分野に関心を持って係わろうとしていたかを知るうえでの資料の宝庫であるし、比較的乏しいとされている大正期日本経済を知る貴重な資料であると考える。

転換期日本の世界的地位を照射

村上勝彦（東京経済大学学長）

大正時代は近代日本における転換期をなす。明治後期に産業革命を遂行し、同時に台湾・朝鮮・関東州など植民地領有の帝国と化した日本を待ちかまえていたものは何か？　大正期の日本経済をとりまく世界的環境はいかなるものであったか？　こうした設問を解く重要な鍵は当時の領事報告の中にある。明治期の『通商彙纂』の続編が大正期の『通商公報』である。『通商公報』には当時の貴重な海外通商情報が満載されているにも関わらず、従来必ずしも十分利用されてこなかった。その原因は、朝鮮や大連など植民地編入の地域が領事報告の対象から外され、その関係の研究者に利用されなくなったこともあるが、それ以上に『通商公報』の有する資料的価値がこれまで必ずしも十分に理解されてこなかったことにある。このことは、毎週二回発行され、一回が百頁余に達するという大部のこの領事報告を閲覧に供する機関が限られており、利用が容易でなかったことにも因っている。

この難点を解決するこのたびの復刻版『通商公報』の出版は、日本近代経済史研究を志す者にとってたいへん喜ばしい。産業革命を経た日本資本主義は、世界市場のあり方に絶えず規定されることになった。当時の世界市場のあり方とその中での日本の対応・地位を最も克明・詳細に伝えるものが『通商公報』である。地域的には隣国中国の情報を最多とし、その他アジア諸地域、米国、欧州、ロシアなど世界各地に及び、分野的には各商品別の通商情報を中心としつつも、産業・財政金融・関税・交通・移民など広範であり、日本経済の世界的展開を跡づけている。第一次大戦好況は日本経済の規模を一挙に数倍に膨張させたが、それを支えた貿易状況は？　同時に生起した中国民族産業の勃興に伴う日中経済対抗のあり方は？　大戦後恐慌の通商面における実態は？　これら転換期日本経済の世界的地位を解きあかすに不可欠な第一級資料が『通商公報』である。

（五十音順）

縮小しています。

通商公報〔第Ⅲ期〕全50巻

⊙復刻版概要——

■収録原本の内容

『通商公報』
（外務省通商局・編纂発行）
第Ⅲ期（大正10年3月→大正13年12月）

『通商彙纂』の継続後誌である『通商公報』は、大正2年4月から大正13年12月、1、228号（通巻号数）まで刊行された。弊社では、これを全3期に分けて刊行し、第Ⅲ期は、大正10年3月3日（811号）～大正13年12月25日（1,228号）を収録する。『通商公報』は、大正14年1月より『日刊海外商報』へと継続する。

■B5判／上製本／中性紙使用
総頁数213、830頁

■解説＝高嶋雅明
第1回配本「『通商公報』解説・総索引」全4巻（これのみ分売可＝95、000円＋税）に収録。

■配本＝全10回配本（第21→30回配本）
（'02年8月～'04年11月）

■各配本＝本体価格95、000円＋税

■本体揃価950、000円＋税

⊙配本一覧

	配本回数	復刻版巻数	収録年月	ISBN	配本年月
'02年度	第21回	第96～100巻	大正10年3月～10年7月	4-8350-4905-5	'02年8月
	第22回	第101～105巻	大正10年8月～10年11月	4-8350-4911-X	'02年11月
	第23回	第106～110巻	大正10年12月～11年4月	4-8350-4917-9	'03年2月
'03年度	第24回	第111～115巻	大正11年5月～11年9月	4-8350-4923-3	'03年5月
	第25回	第116～120巻	大正11年9月～11年12月	4-8350-4929-2	'03年8月
	第26回	第121～125巻	大正12年1月～12年5月	4-8350-4935-7	'03年11月
	第27回	第126～130巻	大正12年5月～12年9月	4-8350-4941-1	'04年2月
'04年度	第28回	第131～135巻	大正12年10月～13年2月	4-8350-4947-0	'04年5月
	第29回	第136～140巻	大正13年3月～13年7月	4-8350-4953-5	'04年8月
	第30回	第141～145巻	大正13年8月～13年12月	4-8350-4959-4	'04年11月

価格：各配本ごと本体価95,000円＋税

続刊予定：『通商公報』の継続後誌は、『日刊・海外商報』（1号～1,135号、大正14年1月～昭和3年3月）、『週刊・海外経済事情』（昭和3年4月～昭和9年12月）、『海外経済事情』（昭和10年1月～昭和18年10月）となる。これらも復刻刊行予定。

表示価格は、全て税別

不二出版
〒113-0023 東京都文京区向丘一-二-一二
TEL ○三-三八一二-四四三三
FAX ○三-三八一二-四四六四
振替 ○○一六○-二-九四○八四